

朕官有森林原野及產物特別處分規則中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年六月二十二日

農商務大臣陸奥宗光

勅令第六十六號(官報六月二十三日)

明治二十三年四月勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則中左ノ通追加ス

第四條 農商務大臣ハ社寺上地官林又ハ特別ノ緣故アル官有森林原野ニシテ存置ヲ要セスト認メ

タルモノハ其社寺又ハ其緣故アル者ニ限り隨意ノ契約ヲ以テ賣渡スコトヲ得

朕在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年六月二十三日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第六十七號(官報六月二十四日)

在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金ハ別表定ムル所ニ依ル共給與細則ハ逓信大臣

之ヲ定ム

本令ハ明治二十四年七月一日ヨリ施行ス

(別表)

國	名	官	名	手	當	額
---	---	---	---	---	---	---

清 國	局	長	金	五	拾	圓
	記	補	金	三	拾	圓
朝 鮮 國	局	長	金	貳	拾	五
	記	補	金	拾	五	圓
暹 羅 國	局	長	金	貳	拾	五
	記	補	金	拾	五	圓

朕明治十七年度中山道鐵道公債金歲入歲出ノ決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年六月二十六日

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十八號(官報六月二十七日)

第一條 會計検査院ノ検査ヲ經明治十七年度中山道鐵道公債金歲入額ヲ千三百五拾萬六千五百八

拾圓九拾四錢壹厘歲出額ヲ百四拾萬九千貳百八圓六錢八厘ニ確定ス

第二條 前條歲入歲出ノ差額千貳百九萬七千三百七拾貳圓八拾七錢三厘ハ翌年度ノ歲出ニ充用ス

明治十七年度中山道鐵道公債金歲入歲出決算

歲入

款 中山道鐵道公債募集金 金千三百五拾萬六千五百八拾圓九拾四錢壹厘

歲出

明治二十四年六月 勅令 第六十八號

一〇五

款 中山道鐵道建設費 金百三拾五萬八千貳百七拾四圓
 款 中山道鐵道公債募集費 金五萬九百三拾四圓六錢八厘
 歲出合計金百四拾萬九千貳百八圓六錢八厘

朕明治十八年度中山道鐵道公債金歲入歲出ノ決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年六月二十六日

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十九號(官報六月二十七日)

第一條 會計検査院ノ検査ヲ經明治十八年度中山道鐵道公債金歲入額ヲ四百七拾八萬四千六拾八圓五拾錢五厘歲出額ヲ貳百貳拾六萬九千六百五拾貳圓ニ確定ス
 第二條 前條歲入額四百七拾八萬四千六拾八圓五拾錢五厘前年度歲入餘贏金千貳百九萬七千三百七拾貳圓八拾七錢三厘合計千六百八拾八萬四千四百四拾壹圓三拾七錢八厘ノ內前條歲出額貳百貳拾六萬九千六百五拾貳圓ヲ控除シ其殘額千四百六拾壹萬千七百八拾九圓三拾七錢八厘ハ翌年度ノ歲出ニ充用ス

明治十八年度中山道鐵道公債金歲入歲出決算

款 中山道鐵道公債募集金 金四百七拾八萬四千六拾八圓五拾錢五厘

款 中山道鐵道建設費 金貳百貳拾五萬圓

款 中山道鐵道公債募集費 金壹萬九千六百五拾貳圓
 歲出合計金貳百貳拾六萬九千六百五拾貳圓

朕明治十九年度中山道鐵道公債金歲出ノ決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年六月二十六日

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七十號(官報六月二十七日)

第一條 會計検査院ノ検査ヲ經明治十九年度中山道鐵道公債金ノ歲出額ヲ三百貳拾四萬九千八圓八拾八錢ニ確定ス
 第二條 前年度歲入餘贏金千四百六拾壹萬千七百八拾九圓三拾七錢八厘ノ內前條歲出額三百貳拾四萬九千八圓八拾八錢ヲ控除シ其殘額千三百三拾六萬貳千七百八拾壹圓九拾九錢八厘ハ翌年度ノ歲出ニ充用ス

明治十九年度中山道鐵道公債金歲出決算

款 中山道鐵道建設費 金貳百三拾七萬九千八圓八拾八錢

款 東海道鐵道建設費 金八拾七萬圓

合計金三百貳拾四萬九千八圓八拾八錢

朕明治十九年度整理公債金歲入歲出ノ決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年六月二十六日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七十一號 (官報 六月二十七日)

第一條 會計検査院ノ検査ヲ經明治十九年度整理公債金歳入額ヲ五百九拾九萬貳千七拾壹圓三拾八錢三厘歳出額ヲ貳百四拾貳萬四千八百八拾四圓五拾四錢五厘ニ確定ス
第二條 前條歳入歳出ノ差額三百五拾六萬七千八百八拾六圓八拾三錢八厘ハ翌年度ノ歳出ニ充用ス
明治十九年度整理公債金歳入歳出決算

歳入

第一款 整理公債募集金 金五百九拾九萬貳千七拾壹圓三拾八錢三厘

第二款 整理公債募集金 金五百九拾九萬貳千七拾壹圓三拾八錢三厘

歳出

第一款 公債償還 金貳百四拾壹萬貳千貳拾圓

第二款 整理公債募集費 金貳百四拾壹萬貳千貳拾圓

第一款 證書製造費 金壹萬四百六拾圓九拾五錢

第二款 證書發行諸費 金貳千三百三圓五拾九錢五厘

合計金貳百四拾貳萬四千八百八拾四圓五拾四錢五厘

朕吳鎮守府定員表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年六月二十六日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第七十二號 (官報 六月二十七日)

吳鎮守府定員表中上等技工下士技手ノ定員ヲ改ムルコト左ノ如シ

上等技工 三

一等下士 十九

二等下士 十八

三等下士 十三

技手 二十三

(参照)

勅令第二百三十七號吳鎮守府定員(明治二十三年十月二十日官報)抄録

上等技工 四

一等下士 二十一

二等下士 二十

三等下士 十五

技手 十六

御名 御璽

朕市町村立小学校長及教員名稱及待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年六月二十九日

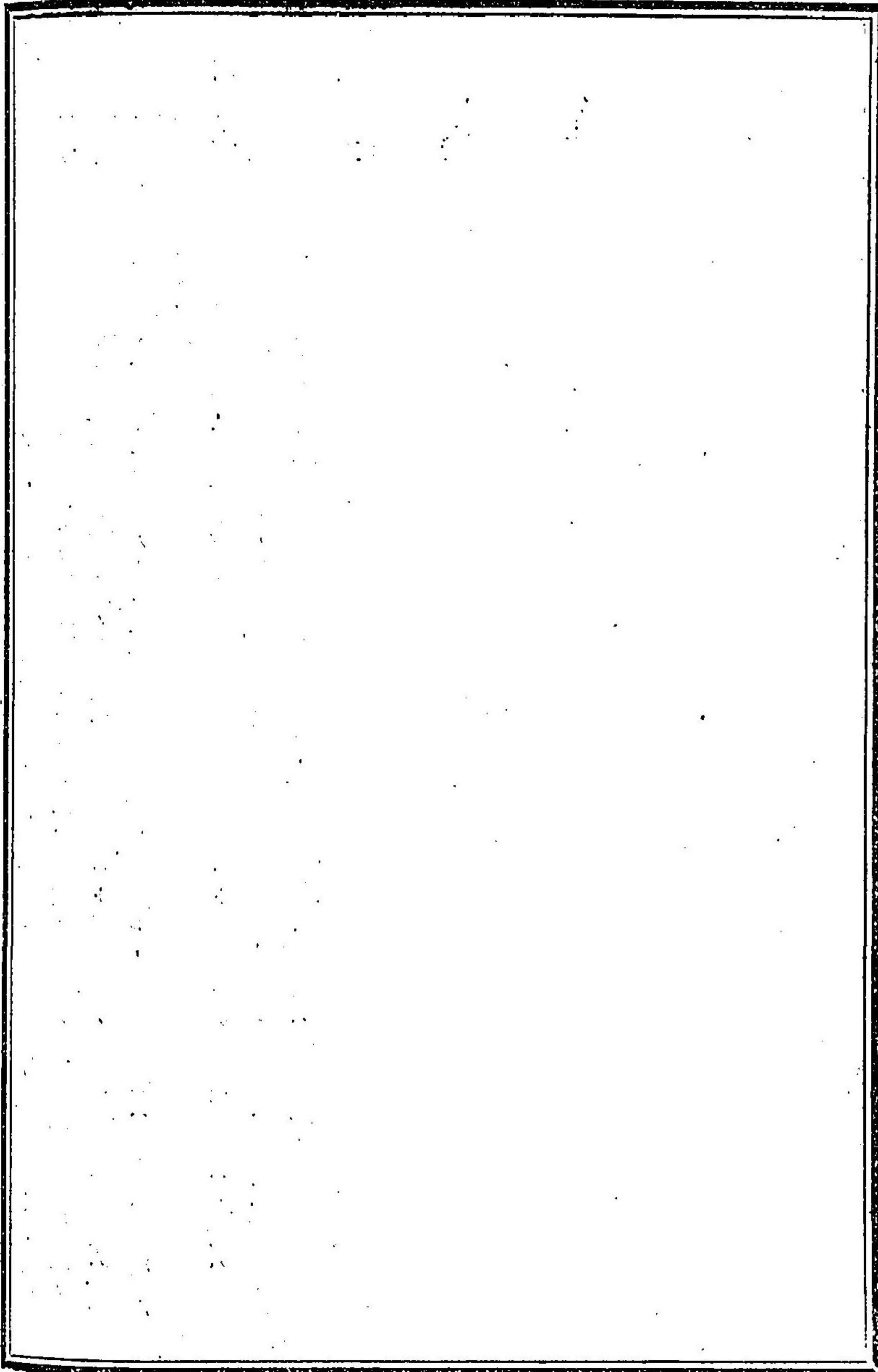
文部大臣伯爵大木喬任

勅令第七十三號 (官報 六月三十日)

市町村立小學校長及教員名稱及待遇
第一條 市町村立小學校長及教員ノ名稱左ノ如シ

- 一 小學校長
 - 二 高等訓導 高等小學校ノ本科正教員タル者及尋常小學校ノ本科正教員中高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ノ名稱トス
 - 三 訓導 尋常小學校ノ本科正教員タル者ノ名稱トス
 - 四 准訓導 小學校ノ本科准教員タル者ノ名稱トス
 - 五 授業師 小學校ノ專科正教員タル者ノ名稱トス
 - 六 准授業師 小學校ノ專科准教員タル者ノ名稱トス
- 第二條 市町村立小學校長及教員ハ左ノ區別ニ從ヒ判任官ヲ以テ待遇ス
- 一 小學校長 教員ノ職ニ對スル待遇ニ從フ
 - 二 高等訓導 判任官五等以上
 - 三 訓導 判任官二以下五等以上但特別ノ勤勞アル者ハ判任官一等ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得
 - 四 准訓導 判任官六等但從前文部省ノ認可ヲ經テ授與シタル修身科教授免許狀ヲ有スル者ハ判任官二以下五等以上ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得又高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從ヒ、小學校ノ專科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ授業師ノ待遇ニ從フコトヲ得

- 五 授業師 判任官三以下五等以上但高等小學校ノ授業師及尋常小學校ノ授業師中高等小學校ノ專科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者又ハ特別ノ勤勞アル者ハ判任官二等ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得又高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從フコトヲ得
- 六 准授業師 判任官六等但高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從ヒ、小學校ノ專科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ授業師ノ待遇ニ從フコトヲ得



朕外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月八日

外務大臣子爵榎本武揚

勅令第七十四號(官報 七月九日)

外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則

第一條 外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生引續歐米諸國ニ滿四年以上又ハ東洋及南洋諸國ニ滿三年以上在勤シタルトキハ外務大臣ハ公務ニ差支ナキ場合ニ限り本人ノ願ニ依リ賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得

第二條 歐米諸國ト東洋及南洋諸國ノ間ニ轉勤シタル場合ニ於テハ前條ノ在勤年期ハ新任國在勤ノ例ニ依ル但轉勤ノ後滿二年以上在勤スルヲ要ス

第三條 賜暇歸朝ノ者ハ往復日數ヲ除キ滿六箇月以内ニ出發歸任スヘシ但相當ノ理由アリテ期限内ニ出發シ難キ者ハ外務大臣ニ於テ豫メ日ヲ限り特ニ出發延期ヲ許可スルコトアルヘシ

朕外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ競争ヲ要セサル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月十一日

内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第七十五號 (官報 七月十三日)

外國公使館敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

朕明治二十四年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

御名 御璽

明治二十四年七月十五日

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第七十六號 (官報 七月十六日)

明治二十四年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途左ノ通之ヲ定ム

- 死 亡 賜 金
- 死 傷 手 當 金
- 訴 訟 費
- 外 國 爲 替 差 金
- 裁 判 費
- 在 外 公 館 地 所 家 屋 借 料 費
- 巡 査 給 手 當 料
- 遺 骸 回 送 手 當 料
- 受 埋 葬 電 信 料
- 外 國 債 元 利 及 手 數 料 並 金 貨 又 ハ 外 國 貨 幣 手 口
- テ 支 給 紙 幣 定 額 中 ノ 裁 判 費 中 ノ 刑 事 裁 判 費 中
- 在 外 公 館 地 所 家 屋 借 料 費 中 ノ 刑 事 裁 判 費 中
- 外 交 官 領 事 官 及 書 記 生 ノ 妻 遺 骸 回 送 手 當
- 及 屯 田 軍 兵 家 族 ノ 埋 葬 料

- 阿 片 製 造 費
- 藥 品 檢 査 印 紙 製 造 費
- 看 守 俸 給 及 給 助 費
- 囚 徒 及 在 監 人 諸 費
- 看 守 及 巡 査 滿 年 賜 金
- 褒 賞 恩 賜 及 救 助 費
- 徵 兵 參 事 員 手 當 及 旅 費
- 海 兵 附 添 人 旅 費
- 檢 丁 旅 費 及 新 兵 入 營 旅 費
- 難 破 船 費
- 海 員 取 扱 費
- 警 察 費 連 帶 支 辨 金
- 沖 繩 縣 地 役 人 役 俸
- 北 海 道 製 麻 會 社 利 益 不 足 補 給
- 北 海 道 紋 織 製 糖 會 社 利 益 不 足 補 給
- 北 海 道 札 幌 製 糖 會 社 利 益 不 足 補 給
- 北 海 道 興 産 社 利 益 不 足 補 給
- 北 海 道 炭 礦 鐵 道 會 社 利 益 不 足 補 給
- 糧 米 扶 助 米 代 及 鹽 菜 料
- 萬 國 關 稅 表 刊 行 同 盟 費
- 公 債 證 書 及 銀 行 紙 幣 製 造 費

整理公債ノ交換シタル各
 種公債ノ利息及手数料各
 理公債ノ利息及手数料並
 大藏省證券利子及手数料
 文官恩給及文官遺族扶助
 退官 賜 金
 軍人恩給及軍人遺族扶助
 沖繩縣僧侶飯米代
 議長副議長議員歳費及旅費
 從價稅品買上代
 密輸出入及違犯申告者給與
 賠償 金
 所得稅調查委員手当
 國稅事務取扱市町村交付金
 國稅滯納處分費
 印紙製造買戻繼札製造及小切手押印費
 拾錢紙幣交換諸費
 諸拂戻及缺損補填金
 日本鐵道會社利益不足補給
 軍馬飼養品費
 供奉 費
 執達吏手当費

萬國測地學協會費
 萬國度量衡會費
 郵便切手製造費買戻金及賣下手数料
 電信取扱手数料
 電信料還付金
 爲替貯金受拂費
 海外信支拂金
 萬國郵便電信聯約費
 官報刊行費

御名 御璽

明治二十四年七月十七日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七十七號(官報 七月十八日)

明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則第十四條ヲ削除ス

〔参照〕

勅令第八十四號物品會計規則(明治二十二年六月十二日官報抄録)
 第十四條 各省大臣ハ一般ノ會計規則ニ據ルモノト特別ノ會計規則ニ據ルモノトヲ區分シ毎年度間ニ買入生産及其ノ他政
 府ノ所有ニ歸シタル物品ノ消耗費拂上失毀損又ハ生産ノ爲メニ消費シ其ノ他政府ノ離權シタル物品ノ數量價格ヲ記シタ
 ル報告書ヲ調製シ年度後六箇月以内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ但シ官有財産管理規則ニ據リ送付スル計算書ニ掲クルモ
 ノヲ除ク

朕海軍會計監督部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第七十八號(官報 七月十八日)

海軍會計監督部條例

- 第一條 海軍會計監督部ハ東京及鎮守府所在地ニ置ク其東京ニ在ルモノヲ中央會計監督部ト稱シ鎮守府所在地ニ在ルモノヲ某地會計監督部ト稱ス
- 第二條 中央會計監督部ハ海軍全般ノ會計事務ヲ監督シ兼テ東京府下ニ在ル海軍各廳艦船ノ會計事務ヲ監督ス
- 第三條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ハ該鎮守府管區内ニ在ル海軍各廳艦船團隊ノ會計事務ヲ監督ス
- 第四條 中央會計監督部ニ部長一人ヲ置キ海軍省第三局長ヲ以テ之ニ兼補シ部員二人ヲ置キ主計大監及主計少監ヲ以テ之ニ補ス
- 第五條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ニ部長一人ヲ置キ主計大監ヲ以テ之ニ補シ部員一人ヲ置キ主計少監ヲ以テ之ニ補ス
- 第六條 中央會計監督部長ハ海軍大臣ノ指揮ヲ承ケ其部務ヲ整理シ鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ヲ指揮監督ス
- 第七條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部長ハ中央會計監督部長ノ指揮ヲ受ケ其部務ヲ整理ス

- 第八條 各會計監督部ノ部員ハ部長ノ指揮ヲ受ケ部務ニ服ス
- 第九條 各會計監督部ニ書記ヲ置キ書記ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
- 第十條 鎮守府所在地ニ在ル會計監督部ニ係ル費用ハ該鎮守府ノ支出ニ屬ス
- 第十一條 各會計監督部ノ職員ハ左表ニ依ル

海軍會計監督部定員表

中央會計監督部	部長	第三局長ヲ以テ兼補ス	
	部員	主計大監	
		主計少監	
橫須賀會計監督部	部長	主計大監	
	部員	主計少監	
吳會計監督部	部長	主計大監	
	部員	主計少監	
佐世保會計監督部	部長	主計大監	
	部員	主計少監	
			十二

朕陸海軍將校分限令中海軍將校分限ニ關スル件ヲ廢シ海軍將校分限令制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第七十九號(官報 七月二十三日)

海軍將校分限令

第一條 海軍將校トハ大將中將少將大佐少佐大尉少尉ヲ云フ

第二條 將校ハ終身其官ヲ保有シ其制服ヲ著シ其官ニ對スル禮遇ヲ享ク之ヲ將校ノ分限トス

第三條 將校ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ依ルニ非レハ其分限ヲ失フコトナシ

第一 本人ノ請願ヲ許容シ其官ヲ免セラレタルトキ

第二 日本人タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

第三 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四 剝官ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第五 禁錮ニ處セラレ其官ヲ失ヒタルトキ

第六 武官タルノ本分ニ背キ勅裁ニ依リ免官トナリタルトキ

第四條 將校ノ位置ヲ分ツコト左ノ如シ

第一 現役

第二 豫備

第三 後備

第四 退役

第五條 現役トハ現ニ軍務ヲ奉スル者修學ヲ命セラレタル者將官海軍部内ノ文官ニ任セラレタル者及待命者ヲ云フ休職停職ニ在ル者ハ現役ニ準ス

待命トハ現職ナクシテ命ヲ待ツ者ヲ云フ

休職トハ左ニ掲クル事項ノ一ニ依リ職務ナキ者ヲ云フ

一 待命一箇年ヲ過タル者

二 傷疾若クハ疾病六箇月ニ至リ尙ホ快復ノ候ナキ者

三 本人ノ請願ニ依リ修學ヲ許容シタル者

四 前項ノ修學者ニシテ修學滿期ノ後就職ノ命ナキ者

五 上長官士官海軍部内ノ文官ニ專任シタルトキ

停職トハ其行為懲戒スヘキコトアリ其情狀稍輕ク在職又ハ就職ヲ停メラル、者ヲ云フ但停職者ハ一箇年ノ後ニ非レハ就職スルコトヲ得ス

第六條 豫備トハ年齡滿限ニ至ラスシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ依リ現役ヲ退キタル者ヲ云フ

第一 明治二十三年ハ勅令第九十九號第三條ニ依リ現役ヲ退キタルトキ

第二 休職ニ入り二箇年ニ至リ就職セサルトキ但第五條第三項ノ第三ニ該ル者ハ此限ニアラス

第三 停職ニ入り一箇年半ニ至リ就職セサルトキ

第四 海軍部外ノ文官ニ專任シタルトキ

第五 貴族院令第四條第五條ニ依リ貴族院議員ト爲リタルトキ

第七條 後備トハ年齡滿限ニ至リ現役ヲ退キタル者及豫備滿期ニ至リタル者ヲ云フ

豫備後備ノ服役年期ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 退役トハ後備滿期ニ至リタル者又ハ傷疾疾病ノ爲メ永久服役ニ堪ヘスシテ現役又ハ豫備又ハ後備ヲ退キタル者ヲ云フ

第九條 豫備後備者ハ召集ニ應スヘキモノトス

第十條 本令ハ將校相當官ニ適用ス

附 則

第十一條 本令公布以前休職ニ入り二箇年ヲ過キタルモノハ本令公布ノ日ヨリ豫備トシ其他ハ休職ニ入りタル日ヨリ起算シ二箇年ニ至リ豫備ニ入ルモノトス

〔參照〕

勅令第十一號貴族院令明治二十二年二月十一日抄録

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各其ノ同時ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ職員タルヘシ其ノ選ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項職員ノ數ハ伯子男爵各、總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身職員タルヘシ

勅令第九十九號(明治二十三年六月二十一日官報)抄録

第三條 陸海軍軍人定限ノ年齢ニ達セサルモ現役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサルトキハ將官ハ上簡ニ依リ且長官士官ハ陸海軍大臣准士官ハ所管長官官ヲ監メテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

朕造船造兵監督官條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第八十號(官報 七月二十四日)

造船造兵監督官條例

第一條 海軍造船造兵ノ工事ヲ造船部造兵廠外ノ工場ニ委託スルトキハ造船監督官造兵監督官ヲ置キ其事業ヲ監督セシム

第二條 造船造兵ノ事ニ於テハ監督官ノ外會計主務官ヲ置キ其會計事務ヲ整理セシメ監督助手ヲ置キ事業ノ監督ヲ補助セシム

第三條 造船造兵監督官ハ佐尉官技監技士ヲ以テ之ニ補シ會計主務官ハ主計官ヲ以テ之ニ補シ監督助手ハ准士官下士又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 造船造兵監督官會計主務官監督助手ハ別ニ定員ヲ置カス豫算定額内ニ於テ造船造兵事業ノ程度ニ應ジ須要ノ人員ヲ置クコトヲ得

第五條 造船造兵監督官會計主務官ハ海軍省第二局長ノ指揮監督ヲ受ケ監督助手ハ監督官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

朕各省官制通則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣	兼大藏大臣	伯爵松方正義
文部	大臣	臣伯爵大木喬任
外務	大臣	臣伯爵榎本武揚
遞信	大臣	臣伯爵後藤象二郎
海軍	大臣	臣子爵樺山資紀
農商務	大臣	臣陸奥宗光
陸軍	大臣	臣子爵高島綱之助
司法	大臣	臣子爵田中不二麻呂
內務	大臣	臣子爵品川彌二郎

勅令第八十一號(官報 七月二十七日)

各省官制通則中左ノ通改正ス

第九條第二項左ノ通改正ス

府縣委任官ノ進退ハ内務大臣之ヲ奏薦宣行シ其收稅長ニ係ルモノハ大藏大臣之ヲ奏薦宣行ス

第十條中及恩給ノ三字ヲ削除ス

第十二條 削除

第十三條 各省大臣ハ其省ノ豫算定額内ニ於テ高等官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得
第十七條 次官ハ命ヲ大臣ニ承ケ省務ヲ整理シ各局課ノ事務ヲ監督ス
第十八條第十九條 削除
第二十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク
大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機密文書ニ關スルコト
- 二 機密事務ニ關スルコト
- 三 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 四 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト
- 五 各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スルコト
- 六 公文書類及成案文書ヲ接受發送スルコト
- 七 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調製シテ大臣ノ査閱ニ供シ統計ノ材料ヲ統計局ニ官報
掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト
- 八 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト
- 九 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト
- 十 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト
- 十一 其他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムルモノ陸軍省海軍省ニ於テハ前項第九
第十ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ特ニ局ヲ置クコトヲ得
- 第二十一條 各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得
- 第二十二條 削除

第二十四條

大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣其省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定メ内閣總理大臣ニ報告ス

陸軍省海軍省中ノ分課ハ其省官制ニ於テ之ヲ定ム

第二十五條 各局ニ局長一人ヲ置ク勅任又ハ奏任トシ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第二十八條 削除

第三十一條 祕書官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス

祕書官ハ大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ助ク

第三十二條 削除

第三十三條 書記官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ
各局ノ事務ヲ助ク

第三十六條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ
上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ武官及理事主理ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 削除

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五十號各省官制通則(明治二十三年三月二十七日)抄錄

第九條第二項

府縣書記官警部長島司郡長ノ進退ハ内務大臣收稅長ノ進退ハ大藏大臣之ヲ奏薦宣行ス

第十條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ敘位敘勳及恩給ヲ上奏スヘシ

第十二條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付時々ノ狀況ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十三條 各省大臣ハ一週年末ニ其省ノ豫算定額内ニ於テ委任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與シ之ヲ官報ニ公録スルコトヲ得

第十七條 次官ハ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理スルノ責ニ任ス

第十八條 次官ハ大臣ノ命ヲ承ケ第六條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ノ事務ヲ處理ス

第十九條 次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得

第二十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機密文書ニ關スルコト
- 二 機密事務ニ關スルコト
- 三 官吏ノ進退身分ニ關スルコト
- 四 但各省ノ便宜ニ從ヒ總務局ニ於テ處理スルコトヲ得
- 五 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト

其他各省官制ニ依リ特ニ官房ノ所掌ニ屬セシムルモノ

第二十一條 各省中省務ノ全部ヲ統轄スル爲ニ總務局ヲ置ク總務局長ハ次官ヲ以テ之ニ充ツ

總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スルコト
- 二 公文書類及成案文書ヲ接受發送スルコト
- 三 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調整シテ大臣ノ査閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト
- 四 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト
- 五 其他各省官制ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムルモノ

第二十二條 各省ノ便宜ニ從ヒ總務局ヲ置カス大臣官房ニ於テ其事務ヲ掌ルコトヲ得

第二十四條 大臣官房總務局長各局ノ分課ハ各省大臣其省ノ便宜ニ從ヒ閣議ヲ經テ之ヲ定ム

陸軍省海軍省中ノ分課ハ其省官制ニ於テ之ヲ定ム

第二十五條 各局ニ局長一人ヲ置ク但局長ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

局長ハ勅任ニ等又ハ委任三等以上トシ其官等ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

局長ハ委任トス

第二十八條 局長ハ局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ大臣ノ命ニ依リ局長ノ事務ヲ整理ス

第二十九條 局長ハ局長ノ事務ヲ掌ル

第三十條 局長ハ局長ノ事務ヲ掌ル

第三十一條 局長ハ局長ノ事務ヲ掌ル

第三十二條 局長ハ局長ノ事務ヲ掌ル

第三十三條 局長ハ局長ノ事務ヲ掌ル

第三十六條 局中各課ニ課長一人ヲ置キ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ局長ニ承ケ課務ヲ整理ス

各省中特ニ委任官ヲ以テ課長ヲ兼シムルモノハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

陸軍省海軍省中ノ課長ハ武官及理事主理ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 各省中特ニ補助員ヲ要シ又ハ顧問員ヲ要スルトキハ毎次狀ヲ具ヘテ閣議ニ提出シ裁可ヲ請フヘシ

朕茲ニ高等官任命及俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第八十二號 (官報 七月二十七日)

高等官任命及俸給令

内閣總理大臣 伯爵 松方正義

第一條 高等官ヲ分テ勅任官奏任官トス

第二條 勅任官ノ親任式ヲ以テ任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首座ノ大臣之ニ副署ス

第三條 親任式ヲ以テ任スル官ヲ除クノ外勅任官ノ辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第四條 奏任官ノ辭令書ハ其内閣ニ屬スルモノハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行シ其各省ニ屬スルモノハ省印ヲ鈐シ主任大臣之ヲ宣行ス

第五條 勅任奏任文官ノ年俸ハ別ニ定ムルモノ、外左ノ如シ

内閣ノ部

内閣總理大臣 九千六百圓

内閣所屬職員

書記官長 三千五百圓

局長 一號表ニ依ル

書記官 二號表ニ依ル

内閣總理大臣秘書官 一級俸千四百圓

恩給局審査官 二級俸千二百圓

賞勳局 一級俸二級俸各一人トス

總裁 四千圓

副總裁 三千圓

書記官 一級俸二千四百圓

一級俸二級俸各一人トス

法制局

長官 四千圓

部長 三千圓

參事官 二號表ニ依ル

各省ノ部

大臣 六千圓

次官 四千圓

局長 一號表ニ依ル

參事官 二號表ニ依ル

秘書官 二號表ニ依ル

書記官 三號表ニ依ル

外務省翻譯官 千八百圓

内務省警保局主事 二號表ニ依ル

大藏省主計官 二號表ニ依ル

大藏省主稅官 三號表ニ依ル

文部省視學官 千二百圓

農商務省特許局審判官 技術官俸給令ニ依ル

農商務省特許局審査官 千圓

遞信監察官 三號表ニ依ル

遞信事務官 二號表ニ依ル

第六條 年俸ニ等級アル者ハ主任大臣別表ニ依リ之ヲ給ス

第七條 陸海軍武官ノ年俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 第八條 局長ハ委任官ニ在ルコト五年以上ニアラザレハ之ニ任スルコトヲ得ス
 第九條 高等文官滿七年以上同一ノ職ヲ奉シ功績顯著ナル者ハ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ特ニ現俸八分ノ一以内ヲ増給スルコトヲ得同職中俸給ニ等級アルモノハ其最上級ニ達シタル日ヨリ起算ス

府縣知事ハ等級ニ拘ラス其知事令在職ノ年月ヲ通算ス

判事ハ大審院長檢事ハ檢事總長ニ補セラレタル日ヲ以テ最上級ニ達シタルモノトス

第十條 委任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼スル所ノ俸給三分ノ一以内ヲ給スルコトヲ得

同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十一條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同シ

第十二條 高等文官ノ年俸ハ之ヲ四分ノ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ之ヲ給ス

第十三條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第十四條 非職廢官退官及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシテ當月分ノ全額ヲ給ス

第十五條 非職廢官退官者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙従前ノ年俸ヲ給ス

第十六條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹ルモノ及優恩ニ由リ賜暇休養スルモノハ此限ニアラス

第十七條 前條ノ外私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス

第十八條 他ノ高等官俸給令ニ於テ別ニ規定ナキモノハ總テ本令ノ規定ニ依ル

第十九條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第六號高等官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 一號表

官名	年俸	官名	年俸
内閣恩給局長	二千五百圓	大藏省主稅局長	三千圓
同 記 錄 局 長	二千五百圓	同 國 債 局 長	三千圓
同 統 計 局 長	二千五百圓	同 監 査 局 長	二千五百圓
同 官 報 局 長	二千五百圓	同 預 金 局 長	二千五百圓
外務省政務局長	三千圓	司法省總務局長	三千圓
同 通 商 局 長	二千五百圓	文部省專門學務局長	三千圓
同 取 調 局 長	二千五百圓	同 普 通 學 務 局 長	三千圓
同 翻 譯 局 長	二千五百圓	農商務省農務局長	三千圓
内務省縣治局長	三千圓	同 商 工 局 長	三千圓
同 警 保 局 長	三千圓	同 山 林 局 長	三千圓
同 土 木 局 長	三千圓	同 礦 山 局 長	二千五百圓
同 衛 生 局 長	二千五百圓	同 特 許 局 長	二千五百圓
同 社 寺 局 長	二千五百圓	逓信省郵務局長	三千圓
同 庶 務 局 長	二千五百圓	同 管 船 局 長	三千圓
大藏省主計局長	三千圓	同 電 務 局 長	二千五百圓

二號表

官名	年俸	等級
内閣書記官	一級 二千五百圓	三級 二千圓
内閣總理大臣秘書官	一級 二千五百圓	三級 二千圓
法制局參事官	一級 二千五百圓	三級 二千圓
各省參事官	一級 二千五百圓	三級 二千圓
各省大臣秘書官	一級 二千五百圓	三級 二千圓
各省書記官	二級 二千二百圓	四級 千八百圓
大藏省主計官	二級 二千二百圓	四級 千八百圓
大藏省主税官	二級 二千二百圓	四級 千八百圓

三號表

官名	年俸	等級
外務省翻譯官	一級 千八百圓	三級 千四百圓
文部省視學官	二級 千六百圓	四級 千二百圓
逓信事務官	一級 千二百圓	三級 九百圓
	二級 千圓	四級 八百圓
		五級 七百圓

朕茲ニ判任官俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第八十三號(官報 七月二十七日)

内閣總理大臣 伯耆松方正義

判任官俸給令

第一條 判任文官ノ月俸ヲ別テ十級トシ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

第二條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第三條 判任官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス

第四條 判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ラス

漸次七十五圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第五條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同シ

第六條 前條ノ外俸給支給ニ關シテハ高等官任命及俸給令第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條ノ例ニ依ル

第七條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第三十六號判任官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

別表

一級 六十圓	三級 四十五圓	五級 三十五圓	七級 二十五圓	九級 十五圓
二級 五十圓	四級 四十圓	六級 三十圓	八級 二十圓	十級 十二圓

朕茲ニ技術官俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

明治二十四年七月 勅令 第八十四號

内閣總理大臣 伯耆松方正義

勅令第八十四號(官報 七月二十七日)

技術官俸給令

- 第一條 各廳ニ於テ工藝技術ヲ要スルモノハ職員ノ外特ニ技術官ヲ置ク
- 第二條 技術官ヲ分テ技監技師技手トス
- 第三條 技監ハ勅任トシ技師ハ奏任トシ技手ハ判任トス
- 第四條 技監ノ年俸ハ三千圓トシ技師ノ年俸ハ特ニ定ムルモノ、外本年勅令第八十二號高等官任命及俸命及俸給令第二號表ニ依ル
- 第五條 技術官ハ各廳事務ノ繁簡ニ依リ俸給最低額以下ヲ給スルコトアルヘシ
- 第六條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外技監技師ニ關シテハ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令ヲ適用シ技手ニ關シテハ本年勅令第八十三號判任官俸給令ヲ適用ス

附則

第七條 技術官ニシテ現ニ休職中ノ者ハ其休職滿期迄仍ホ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

朕内閣所屬職員官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第八十五號(官報 七月二十七日)

内閣總理大臣 伯爵 松方正義

内閣所屬職員官制中左ノ通改ム
 第一條中「技師」試補「技師試補」ヲ削除ス
 第十條中「五人」ヲ「四人」ニ改ム
 第十三條第十六條削除

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百十四號内閣所屬職員官制(明治二十三年七月一日官報)抄錄

第一條 内閣所屬ノ職員左ノ如シ

- 書記官長
- 忍給局長
- 記録局長
- 統計局長
- 官報局長
- 書記官
- 内閣總理大臣秘書官
- 恩給局審査官
- 技師
- 試補
- 技師試補
- 恩
- 技手

- 第十條 書記官ハ左ノ事務ヲ掌ル事任書記官ハ五入ヲ以テ定員トス
- 一 詔勅法律命令ノ繕寫及發布ニ關スル事項
 - 二 公文ノ査閲起草及受授ニ關スル事項
 - 三 機密文書ノ保存ニ關スル事項
 - 四 官印ノ管守ニ關スル事項
 - 五 各廳高等官履歷ニ關スル事項
 - 六 内閣ノ會計ニ關スル事項
- 第十三條 技師、試補及技師試補ハ各二人ヲ以テ定員トス
- 第十六條 内閣所屬ノ高等官ハ本務ノ外閣内各局ノ事務ヲ兼動スルコトアルヘシ

朕法制局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義

勅令第八十六號(官報 七月二十七日)

法制局官制中左ノ通改ム

第二條中又ハ奏任一等ノ六字ヲ刪ル

附 則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第九十一號法制局官制(明治二十三年六月十二日官報抄録)

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	一人	勅任
部長	二人	勅任又ハ奏任一等
參事官	十八	奏任
書記官	二十八	參事官ヨリ兼ネシム
試補	六人	
屬	二十人	判任

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
外務大臣 子爵榎本武揚

勅令第八十七號(官報 七月二十七日)

外務省官制

- 第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政略ノ施行及外國ニ於ル帝國商利ノ保護ニ關スル事務ヲ管理シ
交際官及領事官ヲ監督ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲グルモノ、外帝國ニ駐在スル外國交際官領事官、外國人敍勳、
外國ニ於ル内外人結婚、海外移住民取締及條約書保管ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 外務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ四人ヲ以テ定員トス
- 第四條 外務省ニ左ノ四局ヲ置ク
政務局

- 通商局
- 取調局
- 翻譯局
- 第五條 政務局長ハ勅任トシ通商局長、取調局長、翻譯局長ハ奏任トス
- 第六條 政務局ニ於テハ外交政略ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第七條 通商局ニ於テハ通商航海ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 取調局ニ於テハ法律ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 翻譯局ニ於テハ翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 外務省ニ翻譯官六人ヲ置ク奏任トス翻譯局ニ屬シテ共事務ニ從事ス
- 第十一條 外務省試補ハ八人ヲ以テ定員トス
- 第十二條 外務省屬ハ八十八人ヲ以テ定員トス
- 附則
- 第十三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

除内務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第八十八號(官報 七月二十七日)

内務省官制

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
内務大臣 子爵 品川彌二郎

- 第一條 内務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木、衛生、地理、氣象、社寺、出版、版權、戶籍、賑恤、救済及鐵道ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會、鐵道廳長官、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ監督ス
- 第二條 内務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第三條 參事官書記官ハ通則ニ掲クル職務ノ外監獄巡閱ノ事ヲ掌ル
- 第四條 内務省ニ左ノ六局ヲ置ク
 - 縣治局
 - 警保局
 - 土木局
 - 衛生局
 - 社寺局
 - 庶務局
- 第五條 縣治局長、警保局長及土木局長ハ勅任トシ衛生局長、社寺局長、庶務局長ハ奏任トス
- 第六條 縣治局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 議員選舉ニ關スル事項
 - 二 府縣會、府縣經濟其他總テ府縣行政ニ關スル事項
 - 三 郡區會、郡ノ經濟其他總テ郡區行政ニ關スル事項
 - 四 市會、町村會及市町村經濟其他總テ市町村行政ニ關スル事項
 - 五 府縣費ニ關スル事項
 - 六 賑恤及救済ニ關スル事項
 - 七 府縣立以下ノ貧院、盲啞院、瘋癲院、育兒院其他慈善ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項

- 八 徵兵及徵發ニ關スル事項
- 九 地方行政事務ニシテ他ノ主管ニ屬セサル事項
- 第七條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 行政警察ニ關スル事項
 - 二 高等警察ニ關スル事項
 - 三 監獄ニ關スル事項
 - 四 假出獄及監視假免ニ關スル事項
- 第八條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
 - 二 府縣經營ノ土木工事ノ監督ニ關スル事項
 - 三 河港道路其他公共ノ土木工事ニ關スル事項
 - 四 直轄工費及府縣工費ノ補助ニ關スル事項
- 第九條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 傳染病及地方病ノ豫防種痘其他總テ公衆衛生ニ關スル事項
 - 二 檢疫停船ニ關スル事項
 - 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
 - 四 地方衛生工事ノ監督ニ關スル事項
 - 五 地方衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 第十條 社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 神宮官國幣社招魂社並神社格及古社寺保存ニ關スル事項
 - 二 神佛各派ノ教規宗制 神職僧侶教師ノ身分社寺及宗教ノ用ニ供スル堂宇ノ存廢其他總テ宗

- 第十一條 庶務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
 - 二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
 - 三 官有地處分並管理ニ關スル事項
 - 四 土地收用ニ關スル事項
 - 五 地名稱並地種目變換ニ關スル事項
 - 六 水面埋立ニ關スル事項
 - 七 氣象ニ關スル事項
 - 八 戸口及民籍ニ關スル事項
 - 九 褒賞ニ關スル事項
 - 十 圖書出版及版權登錄ニ關スル事項
 - 十一 圖書保存ニ關スル事項
 - 第十二條 內務省ニ警保局主事一人ヲ置ク奏任トス
 - 第十三條 警保局主事ハ高等警察ノ事務ヲ掌理ス
 - 第十四條 內務省ニ技師三八技手三人ヲ置ク
 - 第十五條 內務省試補ハ十八ヲ以テ定員トス
 - 第十六條 內務省ニ技師試補十五人ヲ置ク
 - 第十七條 內務省屬ハ二百六十八人ヲ以テ定員トス
 - 第十八條 前各條ニ定ムルモノ、外臨時建築ノ事務ヲ掌理セシムル爲左ノ職員ヲ置ク
 - 技師 四人

技手 二十人
屬 十五人

第十九條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第八十九號(官報七月二十七日)

大藏省官制

- 第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計出納租稅國債貨幣預金保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村ノ財務ヲ監督ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大藏省所屬出納官吏ノ身元保證及損失金償價ニ關スル事項
 - 二 訴訟及訴願ニ關スル事項
- 第三條 大藏省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第四條 大藏省ニ左ノ五局ヲ置ク
 - 主計局
 - 主稅局

國債局

監査局

預金局

- 第五條 主計局長、主稅局長、國債局長ハ勅任トシ監査局長、預金局長ハ委任トス
- 第六條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 總豫算總決算ニ關スル事項
 - 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
 - 三 仕拂豫算ノ檢視ニ關スル事項
 - 四 國庫簿ノ登記ニ關スル事項
 - 五 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 豫備金支出ニ關スル事項
 - 七 定額繰越過年度支出ノ承認及定額戻入年度開始前支出ノ檢視ニ關スル事項
 - 八 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 九 國庫金ノ出納管理ニ關スル事項
 - 十 國庫金ノ出納計算書ニ關スル事項
 - 十一 出納官吏ノ監督及身元保證ニ關スル事項
 - 十二 金庫ノ管理監督ニ關スル事項
 - 十三 貨幣ノ制度ニ關スル事項
 - 十四 物品會計ニ關スル事項
- 第七條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項

- 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
- 三 土地臺帳ニ關スル事項
- 四 稅關輸出輸入ノ形況調査ニ關スル事項
- 五 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
- 六 印紙類ノ出納保管ニ關スル事項
- 七 府縣北海道及稅關ノ諸收入ニ關スル事項
- 八 府縣郡市町村ノ租稅ニ關スル事項
- 第八條 國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公債ノ募集借入及償還ニ關スル事項
 - 二 公債原簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 紙幣公債證書大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 四 紙幣公債證書及大藏省證券用紙ノ出納保管ニ關スル事項
 - 五 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 七 公債元利金公債取扱手数料年金恩給及諸祿ノ仕拂豫算ニ關スル事項
 - 八 國債費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
 - 九 政府ノ特別資金ニ關スル事項
 - 十 國債恩給及諸祿計算書ノ下檢査ニ關スル事項
 - 十一 府縣郡市町村ノ公債ニ關スル事項
- 第九條 監査局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 諸銀行ノ監理ニ關スル事項

- 二 日本銀行兌換銀行券及國立銀行紙幣ニ關スル事項
- 三 大藏省所管營造物ノ監督ニ關スル事項
- 四 大藏省所管出納官吏ノ計算書下檢査ニ關スル事項
- 五 保護會社會計ノ監督ニ關スル事項
- 六 國立銀行紙幣用紙ノ出納保管ニ關スル事項
- 第十條 預金局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 寄託金及供託物ノ出納ニ關スル事項
 - 二 寄託金及預金局特別資金ノ收支運用ニ關スル事項
 - 三 寄託金及預金局特別資金計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 四 寄託金利子仕拂元金ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
- 第十一條 大藏省ニ主計官七人主稅官五人ヲ置ク奏任トス主計局及主稅局ニ屬シテ其事務ヲ掌ル主計官ハ特ニ命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ掌ルコトアルヘシ
- 第十二條 大藏省試補ハ十八人ヲ以テ定員トス
- 第十三條 大藏省屬ハ四百五人ヲ以テ定員トス
- 附則
- 第十四條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

御名 御璽

朕陸軍省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年七月二十四日

勅令第九十號(官報七月二十七日)

陸軍省官制中左ノ通改ム

第四條第五條 削除

第六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第七條 陸軍省ニ左ノ三局一部ヲ置ク

軍務局 陸軍將官ヲ以テ局長ニ充ツ

經理局 陸軍監督長ヲ以テ局長ニ充ツ

醫務局 陸軍軍醫總監ヲ以テ局長ニ充ツ

法官部 勅任理事ヲ以テ部長ニ充ツ

第八條 各局ノ課長ハ上長官、副官及課員ハ上長官士官、副課員ハ士官ヲ以テ之ニ補シ法官部部員

ハ理事錄事ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條中「會計局」ヲ「經理局」ニ改ム

第十七條第四號中「軍吏學校」ヲ「經理學校」ニ改ム

第二十三條第二號中「司法」ノ二字ヲ削ル

第二十四條ノ定員表別表ノ通改ム

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

内閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍省職員定員表

大臣次官									
房官臣大		軍務局							
人事課長 大佐	副官	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
一課員 大尉	大佐	第一課 課長 大佐	第二課 課長 大佐	第三課 課長 大佐	第四課 課長 大佐	第五課 課長 大佐	第六課 課長 大佐	第七課 課長 大佐	第八課 課長 大佐
副課員 大尉	少佐	第一課 課長 大佐	第二課 課長 大佐	第三課 課長 大佐	第四課 課長 大佐	第五課 課長 大佐	第六課 課長 大佐	第七課 課長 大佐	第八課 課長 大佐
二	二	一課員 大尉	一課員 大尉	一課員 大尉	一課員 大尉	一課員 大尉	一課員 大尉	一課員 大尉	一課員 大尉
副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉	副課員 大尉
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八	屬二十六十八
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

備考	一	各局課副課員定員中ニ於テハ軍吏部士官定員中ニ於テハ技手ヲ混用スルコトヲ得	一	課員一等軍醫	一	課員一等軍醫	一	課員一等軍醫	一	課員一等軍醫	
	二	當分ノ内軍務局馬政課ニ在テハ騎兵科下士會計局ニ在テハ軍吏部下士醫務局ニ在テハ衛生部下士ヲ屬定員中ニ於テ混用スルコトヲ得	二	課員一等軍醫	二	課員一等軍醫	二	課員一等軍醫	二	課員一等軍醫	
三	本表定員ノ外當分ノ内本省電信取扱所ニ六等以下ノ技手七名ヲ置ク	三	課員一等軍醫	三	課員一等軍醫	三	課員一等軍醫	三	課員一等軍醫	三	課員一等軍醫

朕海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
海軍大臣 子爵樺山資紀

勅令第九十一號(官報七月二十七日)

海軍省官制

- 第一條 海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス
- 第二條 海軍大臣秘書官ハ一人トシ主計大監ヲ以テ之ニ補ス
- 第三條 海軍大臣官房ニ主事副主事各一人ヲ置ク主事ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ副主事ハ主計大監ヲ以テ之ニ補ス

- 第四條 主事ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ副主事ハ主事ヲ助ク
- 第五條 海軍省ニ參事官書記官ヲ置カス
- 第六條 海軍省ニ左ノ三局ヲ置ク

- 第一局 第一課 第一課長 第一課長ハ武官教官主理ノ進退任免艦團軍隊ノ制規職務戒嚴徵獲教育訓練紀律徵兵儀式服制ニ關スル事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第二局 第二課 第二課長 第二課長ハ艦船兵器ノ製造修理兵器彈藥艦營雷品ノ準備供給及艦船籍ニ關スル事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第三局 第三課 第三課長 第三課長ハ經費ノ豫算決算金錢及物品會計ノ事務被服糧食俸給恩給諸給土地家屋ノ保管營造金錢出納及用度ノ事務ヲ掌リ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第四條 各局中各課ニ次長各一人ヲ置ク第一局第一課ニ機關少監一人ヲ勤務セシム
- 第五條 第一局長及第二局長ハ少將第三局長ハ主計總監ヲ以テ之ニ補シ各課長及第一局第一課次長第二局第一課次長第三局第二課次長ハ上長官ヲ以テ之ニ補シ其他課次長ハ士官ヲ以テ之ニ補ス
- 第六條 第一局第三課長及次長ハ東京軍法會議ノ主理ヲ以テ之ヲ兼務セシム
- 第七條 課長ハ局長ノ命ヲ承ケ課務ヲ整理ス課次長ハ課務ノ一部ヲ分擔シ課長事故アルトキハ之ヲ代理ス又機關少監ハ課長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス
- 第八條 海軍省ニ上等兵曹機關師船匠師屬技手ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

明治二十四年七月 勅令 第九十一號

第十四條 海軍省ノ職員ハ別表定ムル所ニ依ル

附則

第十五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

別表

海軍省職員定員表

大臣		次官		大 官		房 官		大 官		大 官		大 官		大 官		大 官		大 官		大 官	
局長		少 長		少 長		副 主 事		主 事		主 計 大 監		大 佐		大 佐		主 計 大 監		大 佐		主 計 大 監	
第一課		第二課		第三課		第一課		第二課		第三課		第一課		第二課		第三課		第一課		第二課	
長		少 長		少 長		長		長		長		長		長		長		長		長	
主計總監		將		將		長		長		長		長		長		長		長		長	
第三課		第一課		第二課		第三課		第一課		第二課		第三課		第一課		第二課		第三課		第一課	
長		長		長		長		長		長		長		長		長		長		長	
主計大監		大 佐		大 佐		大 佐		大 佐		大 佐		大 佐		大 佐		大 佐		大 佐		大 佐	
次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長	
次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長		次長	
大主計		大主計		大主計		大主計		大主計		大主計		大主計		大主計		大主計		大主計		大主計	
技 手		技 手		技 手		技 手		技 手		技 手		技 手		技 手		技 手		技 手		技 手	
十		六十二		一		一		一		一		一		一		一		一		一	

一五二

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第九十二號(官報 七月二十七日)

司法省官制

第一條 司法大臣ハ司法上ノ行政司法警察及恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ裁判ノ執行ヲ監視シ行

政事務ニ付テ裁判所ヲ監督ス

第二條 司法省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第三條 司法省ニ總務局ヲ置ケ

總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 民事ノ法律命令ニ關スル事項
- 二 刑事ノ法律命令ニ關スル事項
- 三 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 四 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
- 五 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 六 裁判所附屬吏員及代言人ノ身分ニ關スル事項
- 七 統計報告ノ調整並官報掲載ニ關スル事項
- 八 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

内閣總理大臣 伯 爵 松 方 正 義
司 法 大 臣 子 爵 田 中 不 二 麻 呂

明治二十四年七月 勅令 第九十二號

一五三

九 公文書類ノ接受發送ニ關スル事項

第四條 總務局長ハ勅任トス

第五條 司法省試補ハ四人ヲ以テ定員トス

第六條 司法省屬ハ九十八人ヲ以テ定員トス

附則

第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
文部大臣 伯耆大木喬任

勅令第九十三號 (官報 七月二十七日)

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル

一 公立學校職員ノ進退身分ニ關スル事項

二 教員檢定ニ關スル事項

三 教科用圖書檢定ニ關スル事項

四 教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スル事項

五 教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項

六 雇外國人ニ關スル事項

七 海外留學生ニ關スル事項

八 訴願ニ關スル事項

第三條 文部省專任參事官ハ二人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク

專門學務局

普通學務局

第五條 專門學務局長 普通學務局長ハ勅任トス

第六條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 大學校及高等專門學校ニ關スル事項

二 中學校ニ關スル事項

三 專門學校及技藝學校ニ關スル事項

四 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

五 高等圖書館天文臺等ニ關スル事項

六 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項

七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項

八 學士會院及學術會ニ關スル事項

第七條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 師範學校ニ關スル事項

二 小學校ニ關スル事項

- 三 高等女學校ニ關スル事項
- 四 幼稚園普通圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ニ關スル事項
- 五 教育博物館及教育會ニ關スル事項
- 六 通俗教育ニ關スル事項
- 七 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
- 八 郡視學及市町村學務委員ニ關スル事項
- 九 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スル事項
- 第八條 文部省ニ視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察及學校檢閲ノ事ヲ掌ル
視學官ハ特ニ命ヲ承ケ他ノ事務ヲ兼掌ス
- 第九條 文部省ニ技師一人ヲ置ク奏任トス學校建築ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十條 文部省ニ技師一人ヲ置ク奏任トス
- 第十一條 文部省ニ技師試補一人ヲ置ク
- 第十二條 文部省屬ハ百人ヲ以テ定員トス
- 附則
- 第十三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第九十四號(官報 七月二十七日)

農商務省官制

- 第一條 農商務大臣ハ農商工水産林野鑛山發明意匠商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外内外博覽會及共進會農商工諮詢會圖書並報告書類ノ刊行管理及褒賞其他各局ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ掌ル
- 第三條 農商務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第四條 參事官ハ通則ニ掲クルモノ、外臨時命ヲ承ケ鑛山山林其他農商工ノ事ヲ巡視ス
- 第五條 農商務省ニ左ノ五局一所ヲ置ク

農務局

商工局

山林局

鑛山局

特許局

地質調査所

第六條 農務局長、商工局長、山林局長ハ勅任トシ鑛山局長、特許局長ハ奏任トス

地質調査所長ハ局長又ハ技師ヲ以テ之ヲ兼ネシム

第七條 農務局ニ於テハ農業、農會、農業組合、農業土木、農産物虫害豫防及驅除、蠶業、茶業、獸醫、蹄鐵

工、家畜、家禽、牛馬、籍、狩獵、有益蟲類、漁業、漁業組合、漁場、漁船、漁具、水産物製造及鹽田ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 商工局ニ於テハ商業、商業會議所、商工同業組合、度量衡、商事會社、商業仲立人及仲立人組

合、内外通商、相場所、工場及保險營業ニ關スル事務ヲ掌ル

明治二十四年七月 勅令 第九十四號

第九條 山林局ニ於テハ森林ノ施業、林野ノ區域及境界ノ調査、林野ノ利用及保護、蕃殖、民有林保存、林及林野ノ臺帳ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 鑛山局ニ於テハ鑛業ノ許可、鑛區ノ境界及位置訂正、鑛區ノ合併分割、鑛業ノ保護及鑛業ノ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 特許局ニ圖書館ヲ置キ、審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム

第十三條 地質調査所ニ於テハ土性調査、主産植物及土性ノ關係試驗、地質ノ關係、地層ノ構造、鑛床ノ確定有用鑛物ノ確定有用物料ノ分析、試驗、地形測量、土性圖、地質圖及其說明書編纂及實測地形圖編製ニ關スル事務ヲ掌ル

第十四條 特許局ニ專任審判官一人、專任審査官五人ヲ置ク

第十五條 審査官ハ委任トス、審判ノ事ヲ掌ル

第十六條 審査官ハ委任トス、審査ノ事ヲ掌ル

第十七條 農商務省試補ハ三人ヲ以テ定員トス

第十八條 農商務省ニ技師三十人、審査官補十二人及技手六十人ヲ置ク

第十九條 審査官補ハ判任トス、特許局ニ屬シ、審査ノ事務ヲ佐ク

第二十條 農商務省ニ技師試補十二人ヲ置ク

第二十一條 農商務省屬ハ百八十八人ヲ以テ定員トス

附則

第十八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第三百三號地質調査所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

朕、逡信省官制ノ改正ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣 伯耆松方正義
逡信 大臣 伯爵 後藤藤象二郎

明治二十四年七月二十四日
勅令第九十五號 (官報 七月二十七日)

御名 御璽

逡信省官制

第一條 逡信大臣ハ郵便、電信、船舶、海員、航路標識及郵便爲替、郵便貯金ニ關スル事務ヲ管理シ、電氣事業ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外逡信監察ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 逡信省ニ左ノ三局ヲ置ク

郵務局
管船局
電務局

第四條 郵務局長、管船局長ハ勅任トシ、電務局長ハ奏任トス

第五條 郵務局ハ郵便及郵便爲替、郵便貯金ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 管船局ハ船舶、海員、航路標識ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 電務局ハ電信電話ニ關スル事務及電氣事業監督ノ事ヲ掌ル

第八條 逡信省專任參事官ハ二人、專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第九條 逡信省ニ逡信監察官二人、逡信監察官補十人ヲ置ク。逡信監察官ハ大臣官房ニ屬シテ逡信監察ノ事務ヲ掌理シ、逡信監察官補ハ監察ノ事務ニ從事ス

遞信監察官ハ奏任トシ遞信監察官補ハ判任トス

第十條 遞信省ニ遞信事務官五人ヲ置ク奏任トス大臣官房郵務局及電務局ニ屬シテ各其事務ヲ分掌ス

第十一條 遞信省ニ技師四人技手二十九人ヲ置ク技師及技手ハ大臣官房及各局ニ屬シテ其事務ニ從事ス

第十二條 遞信省試補ハ三八ヲ以テ定員トス

第十三條 遞信省ニ技師試補二人ヲ置ク

第十四條 遞信省屬ハ二百八十八人ヲ以テ定員トス

附則

第十五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ樞密院議長副議長顧問官並書記官長書記官年俸改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義

勅令第九十六號(官報七月二十七日)

樞密院議長副議長顧問官並書記官長書記官ノ年俸左ノ通改ム

議長 五千圓

副議長 四千五百圓

顧問官 四千圓

書記官長 三千五百圓

書記官 中高等官任命及俸給令 中第二號表ニ依ル

附則 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第二十三號樞密院議長及顧問官年俸(明治二十一年四月三十日官報抄録)

樞密院議長 六千圓

樞密院副議長 五千圓

樞密顧問官 四千五百圓

朕茲ニ會計検査院高等官年俸ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義

勅令第九十七號(官報七月二十七日)

會計検査院高等官年俸左ノ通定ム

部長

四 千 圓

三 千 圓

一級 二千五百圓

二級 二千二百圓

三級 二千圓

検査官

四級	千八百圓
五級	千六百圓
六級	千四百圓
七級	千二百圓
八級	千圓

書記官

書記官ハ一級二級俸各一人トス

一級	二千五百圓
二級	二千圓
三級	一千五百圓
四級	一千圓

検査官補

一級	九百圓
二級	八百圓
三級	七百圓
四級	六百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第九十八號(官報 七月二十七日)

行政裁判所長官評定官年俸左ノ通改ム

長官 評定官

勅任

四千圓

奏任

一級	二千五百圓
二級	二千二百圓
三級	二千圓
四級	一千八百圓
五級	一千六百圓
六級	一千四百圓
七級	一千二百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕貴族院事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第九十九號(官報 七月二十七日)

貴族院事務局官制中左ノ通改ム

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長 一人

書記官

八人

屬

十五人

附 則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百二十一號 貴族院事務局官制(明治二十三年七月十一日官報)抄録

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十八

十八

十八

朕衆議院事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第百號(官報 七月二十七日)

衆議院事務局官制中左ノ通改ム

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

一人

一人

屬

十五人

附 則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百二十二號 衆議院事務局官制(明治二十三年七月十一日官報)抄録

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十八

十八

十八

朕茲ニ貴族院衆議院書記官長並書記官年俸ノ件ヲ裁可ス

御 名 御 璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第百一號(官報 七月二十七日)

貴族院衆議院書記官長並書記官年俸左ノ通定ム

貴族院書記官長

衆議院書記官長

三 千 圓

貴族院書記官
衆議院書記官

一級	二千
二級	千八百
三級	千六百
四級	千四百
五級	千二百
六級	千
七級	九百
八級	八百

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕外交官及領事官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
外務大臣子爵榎本武揚

勅令第百二號(官報 七月二十七日)

外交官及領事官官制中左ノ通改ム

第五條 削除

第十條 無任所外交官及無任所領事官ハ併セテ十五名トス但外務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ無任所外交官ヲ五名マテ増置スルコトヲ得

無任所外交官及無任所領事官ハ滿三年ヲ以テ期トス期滿レハ其官ヲ免ス

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第二百五十七號外交官及領事官官制(明治二十三年十月二十二日官報)抄録

第五條 無任所外交官及無任所領事官ヲ以テ外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第十條 無任所外交官及無任所領事官ハ並セテ二十名ヲ超過スルコトヲ得ス

朕茲ニ公使館領事館費用條例中改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

外務大臣子爵榎本武揚

勅令第百三號(官報 七月二十七日)

公使館領事館費用條例中左ノ通改ム

第二條 外交官及領事官ノ本俸ハ別表ニ依ル但左ノ場合ニ於テハ其半額ヲ給ス

一 賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニシテ歸朝後六箇月ヲ過キタルトキ

二 養病ノ爲メ歸朝ヲ許サレタル者ニシテ歸朝後三箇月ヲ過キタルトキ

外交官及領事官ニシテ任所ナキ者ハ本俸三分ノ一ヲ給ス

第三條第一項左ノ通改ム

公使館書記生及領事館書記生ノ本俸ハ本年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

第十七條中明治十九年勅令第六號第二十一條及同年勅令第三十六號第七條ヲ本年勅令第八十二

朕土木監督署官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第四百四號(官報 七月二十七日)

土木監督署官制中左ノ通改正ス

第七條第一項中「二十八人」ヲ「十六人」ニ改メ同第二項中「十六人」ヲ「十二人」ニ改ム

第八條中「百二十五人」ヲ「百人」ニ改ム

第九條中「四十八人」ヲ「三十五人」ニ改ム

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十七號土木監督署官制(明治二十三年八月四日官報抄録)

第七條 技師ハ委任トシ二十八人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ職務ヲ分掌ス

技師試補ハ十六人ヲ以テ定員トシ各署ニ分屬セシム

第八條 技手ハ判任トシ百二十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

第九條 書記ハ判任トシ四十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

朕衛生試驗所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第五百五號(官報 七月二十七日)

衛生試驗所官制中左ノ通改正ス

第五條中「七人」ヲ「六人」ニ改ム

第六條中「二十二」人」ヲ「十五人」ニ改ム

第七條中「十八」人」ヲ「八人」ニ改ム

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十五號衛生試驗所官制(明治二十三年八月四日官報抄録)

第五條 技師ハ委任トシ七人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試驗ノ事務ヲ分掌ス

技師試補ハ四人ヲ以テ定員トシ各所ニ分屬セシム

第六條 技手ハ判任トシ二十一一人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 書記ハ判任トシ十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

朕中央氣象臺官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月 勅令 第五百五號

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第百六號(官報 七月二十七日)

中央氣象臺官制中左ノ通改正ス

第四條中「四人」ヲ「三人」ニ改ム

第五條中「十五人」ヲ「十八人」ニ改ム

第六條中「五人」ヲ「三人」ニ改ム

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百五十六號中央氣象臺官制(明治二十三年八月四日官報)抄録

第四條 技師ハ奏任トシ四人ヲ以テ定員トス 臺長ノ指揮ヲ承ケ業務ヲ分掌ス

技師候補ハ一人ヲ以テ定員トス

第五條 技手ハ判任トシ十五人ヲ以テ定員トス 上官ノ指揮ヲ承ケ業務ニ從事ス

第六條 書記ハ判任トシ五人ヲ以テ定員トス 上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

朕集治監假留監官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第百七號(官報 七月二十七日)

集治監假留監官制中左ノ通改ム

第五條中「一週年末」ノ五字ヲ削除ス

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百五十三號集治監假留監官制(明治二十三年八月四日官報)抄録

第五條 典獄ハ一週年末ニ其監ノ豫算定額内ニ於テ判任官以下特別ノ勲勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其判任官ニ係ルモノ

ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

朕北海道集治監官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第百八號(官報 七月二十七日)

北海道集治監官制

第一條 北海道集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄

分監長

書記

明治二十四年七月 勅令 第百八號

看守長

監獄醫

第二條 典獄一人奏任トス北海道廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第三條 典獄ハ所屬ノ官吏ヲ監督シ判任官以上ノ進退ハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第四條 典獄ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官以下係給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第五條 典獄ハ北海道集治監豫算定額内ニ於テ判任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其判任官ニ係ルモノハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第六條 典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官以上ニ係ルモノハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第七條 分監長三人奏任トス各分監ノ長トナリ典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理ス

第八條 典獄事故アルトキハ上席分監長北海道廳長官ノ命ヲ承ケ其事務ヲ代理ス

第九條 書記ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 看守長ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第十一條 監獄醫ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第十二條 書記ハ三十一人看守長ハ六十一人監獄醫ハ八人ヲ以テ定員トス

第十三條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十四條 事務ノ分課或處務ノ規程ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十五條 監獄職員ノ外教誨師六人以下ヲ置ク判任ノ待遇トス

第十六條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

附 則

朕鐵道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第百九號(官報 七月二十七日)

鐵道廳官制中左ノ通改ム

第十六條中ニ等以下奏任ニ等以上ノ十字ヲ削除ス

附 則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百九十九號鐵道總官制(明治二十三年九月六日官報)抄錄

第十六條 部長ハ勅任ニ等以下奏任ニ等以上トス長官ノ命ヲ承ケ部中一切ノ事務ヲ掌理ス

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年七月

勅令 第百九號 第百十號

一七五

內閣總理大臣伯耆松方正義

內務大臣子爵品川彌二郎

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第百十號 (官報 七月二十七日)

警視廳官制中左ノ通改ム

第八條中「官等」ノ二字ヲ削除ス

第三十三條中「二部」ヲ「三部」ニ改メ「第二部」ノ次ニ「第三部」ノ三字ヲ加フ

第三十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十六條 第三部ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

一 經費豫算決算及金錢出納ニ關スル事項

第二課

一 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

第三課

一 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

一 官沒並保管ノ金錢物品及不用物品ニ關スル事項

第三十六條ヲ第三十七條ニ改メ同條中「會計局」ノ二字ヲ削除ス

第三十七條ヲ第三十八條ニ改メ第三十八條ヲ削除ス

第四十四條及第四十五條中「參事官」及「巡視官」ヲ「參事」及「巡視」ニ改ム

第四十四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

參事ハ總監ノ命ヲ承ケ局部ノ事務ヲ補助スルコトアルヘシ

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第三十四號警視廳官制(明治二十四年四月二日官報)抄録

第八條 技師技手ハ警視廳ノ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ技術官官等俸給令ニ依リ之ヲ置クコトヲ得

第三十三條 警視總監官房ニ左ノ二部ヲ置ク

第一部

一 警視廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ左ノ局部ヲ置ク

警務局

會計局

醫務局

巡查本部

消防署

監獄署

第三十八條 會計局ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

一 經費豫算決算及金錢出納ニ關スル事項

第二課

一 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

第三課

一 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

一 官沒並保管ノ金錢物品及不用物品ニ關スル事項

第四十四條 第四十一條ノ外總監官房ニ參事官及巡視官各二人ヲ置ク

參事官ハ總監ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
巡視官ハ總監ノ命ヲ受ケ常ニ警察全般ヲ巡視シ其警察署ニ關スル事項ハ巡查本部長ニ報告シ其他ハ總監ニ具狀スヘシ
第四十五條 參事官巡視官ハ委任ニ等以下ノ警視ヲ以テ之ニ補ス

朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
内務大臣 子爵品川彌二郎

勅令第百一十一號 (官報 七月二十七日)

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官
- 書記官
- 警部長
- 警部長
- 財務長
- 參事官
- 技師
- 典獄
- 屬
- 技手

警部
監獄書記
看守長
監獄醫

第二條 長官一人勅任トス

第三條 書記官二人警部長一人財務長一人參事官二人典獄一人奏任トス

第四條 屬警部監獄書記看守長監獄醫ハ判任トス郡區書記ヲ通シテ四百十五人ヲ以テ定員トス

前項各官ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 技師技手ハ道廳ノ須要ニ依リ判任官豫算定額内ニ於テ本年勅令第八十四號技術官俸給令

ニ依リ之ヲ置クコトヲ得

第六條 長官ハ内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命

令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政事務ヲ總理ス

第七條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督シ並北海道集治監ヲ管理ス

第八條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一

般又ハ其一部ニ應令ヲ發スルコトヲ得

第九條 廳令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト

認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止スルコトアルヘシ

第十條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團

長及屯田兵司令官ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十一條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務

大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 長官ハ豫算定額内ニ於テ委任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其委任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十四條 長官ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十五條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 北海道廳ニ長官官房ヲ置ク

第十七條 長官官房ニ書記若干名ヲ置ク屬ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項

二 文書ノ往復

三 官印應印ノ管守

四 記録編輯統計報告ニ關スル事項

五 外國人ニ關スル事項

第十八條 長官事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ左ノ三部一署ヲ置ク

內務部

一 學務衛生社寺ニ關スル事項

二 兵事戸籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項

三 農工商務ニ關スル事項

四 地理山林ニ關スル事項

五 水陸運輸ニ關スル事項

六 漁獵ニ關スル事項

七 河港堤防道路鐵道橋梁排水溝渠ニ關スル事項

八 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項

九 他部ノ主宰ニ關セサル事項

警察部

一 高等警察及行政警察ニ關スル事項

財務部

一 金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項

二 豫算決算ニ關スル事項

三 租稅ノ賦課徵收ニ關スル事項

監獄署

一 道廳監獄ニ關スル事項

第二十條 書記官ハ内務部長、警部部長、警察部長、財務部長、典獄ハ監獄署長ト爲リ各長官ノ指揮ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十一條 參事官ハ長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

第二十二條 技師ハ長官又ハ部長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十三條 各部署中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部署長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

第二十四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十六條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十七條 監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二十八條 看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第二十九條 監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ従事ス

第三十條 道廳職員ノ外效誨師ヲ置ク到任ノ待遇トス其定員ハ長官之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 巡查及看守ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十二條 毎郡若クハ數郡及毎區ニ警察署ヲ置キ各警察署ノ部内ニ警察分署ヲ配置ス

警察署長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充テ警察分署長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ但土地ノ情況ニ依リ特ニ警察署又ハ分署ヲ設置シ警部ヲ以テ其署長ニ充ツルコトヲ得

第三十三條 監獄支署若干ヲ置キ書記ヲ以テ其長ニ充ツ

第三十四條 各郡區職員ヲ置ク左ノ如シ

郡長

區長

郡書記

區書記

第三十五條 郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置ク但函館區長ハ書記官ノ内一人之ヲ兼任ス

第三十六條 郡長區長ハ委任トス長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第三十七條 郡區書記ハ到任トス郡區長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三十八條 地方官官制中警察官及郡長郡書記ニ係ル條項ニシテ本令ニ抵觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區長並郡區書記ニモ之ヲ適用ス

附則

第二十九條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 答 御 璽

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
内務大臣 子爵 品川彌二郎

明治二十四年七月二十四日

勅令第百一十二號 (官報 七月二十七日)

地方官官制中左ノ通改正ス

第七條中「二千二百九十六人」ヲ「五千五百二十五人」ニ改メ「五千六百六十八」ヲ「四千九百二十八人」ニ改ム

第八條中「官等」ノ二字ヲ削除ス

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百二十五號地方官官制(明治二十三年十月十一日官報)抄錄

第七條第三項

判任官ハ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

關稅部監獄書記官守長 六千二百九十六人

收稅官

五千六百六人

第八條 技師技手ハ府縣ノ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ技術官官等俸給令ニ依リ之ヲ陞クコトヲ得

朕北海道集治監分監長及北海道廳典獄特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
内務大臣 伯爵品川彌二郎

勅令第三百十三號(官報 七月二十七日)

第一條 北海道集治監分監長及北海道廳典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ現ニ判任官六級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ任用シタル北海道集治監分監長及北海道廳典獄ハ高等試験ヲ經ルニ非サレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

附則

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ土木監督署衛生試驗所中央氣象臺高等官俸給ノ件ヲ裁可ス
御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
内務大臣 伯爵品川彌二郎

勅令第三百十四號(官報 七月二十七日)

土木監督署長衛生試驗所長中央氣象臺長ノ年俸左ノ如シ

第一區土木監督署長 二千圓

第二區土木監督署長 千五百圓

第三區土木監督署長 千五百圓

第四區土木監督署長 二千圓

第五區土木監督署長 千五百圓

第六區土木監督署長 千五百圓

東京衛生試驗所長 千四百圓

大阪衛生試驗所長 千二百圓

橫濱衛生試驗所長 千七百圓

中央氣象臺長 千四百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ集治監假留監高等官俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第百十五號(官報 七月二十七日)
集治監假留監高等官ノ年俸左ノ通定ム

- 東京集治監典獄 千四百圓
- 三池集治監典獄 千四百圓
- 宮城集治監典獄 千圓
- 兵庫假留監典獄 千圓
- 北海道集治監典獄 千八百圓
- 北海道集治監分監長 八百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ集治監假留監看守人員及俸給ニ關スル條項中追加ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第百十六號(官報 七月二十七日)

明治二十三年勅令第百二十八號集治監假留監看守人員及俸給ノ件第四ニ左ノ一項ヲ追加ス
北海道集治監ニ限リ勤続滿五年以上ニシテ勤勞抜群ナルモノニハ現俸四分ノ一以內ノ加俸ヲ給

スルコトヲ得

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ鐵道廳高等官俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第百十七號(官報 七月二十七日)

第一條 鐵道廳高等官ノ年俸左ノ通定ム

- 長官 四千圓
- 部長 三千圓

第二條 事務官及參事官ノ年俸ハ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令第二號表ニ依ル

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ警視廳高等官俸給令ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第百十八號(官報 七月二十七日)

警視廳高等官俸給令

第一條 警視廳高等官ノ年俸左ノ如シ

警視總監

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

警視

内閣總理大臣伯耆松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

明治二十四年七月二十四日

勅令第百十九號(官報 七月二十七日)

警視廳高等官ノ年俸左ノ如シ

長官

書記官

警部長

財務長

參事官

典獄

郡區長

第一條

内務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡區ノ郡區長ノ年俸八百圓ヲ給ス但共八員ハ七人以内トス

第二條

書記官ハ上級俸下級俸各一八トス

第三條

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第四條

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

附則

内閣總理大臣伯耆松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

朕茲ニ地方高等官俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百二十號(官報 七月二十七日)

地方高等官俸給令

第一條 府縣知事書記官警部長收稅長及典獄ノ年俸左ノ如シ

東京府知事四千圓
京都府知事、大阪府知事、神奈川縣知事、兵庫縣知事、長崎縣知事、新潟縣知事、愛知縣知事、宮城縣知事、廣島縣知事、熊本縣知事三千五百圓
其他ノ縣知事二千圓

書記官	長	千	圓	其他ノ諸縣	千	圓
警部長	長	千	圓		千	圓
收稅長	長	千	圓		千	圓
典獄	長	千	圓		千	圓
		八百	圓		六百	圓

第二條 東京府書記官ハ特ニ年俸二千二百圓ヲ給スルコトヲ得
大阪府警部長ハ特ニ年俸千八百圓ヲ給スルコトヲ得
大阪府典獄ハ特ニ年俸千圓ヲ給スルコトヲ得

第三條 參事官ノ年俸ハ一人ヲ千圓トシ一人ヲ七百圓トス

第四條 郡長ノ年俸ハ六百圓トス
內務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡ノ郡長ハ年俸八百圓ヲ給ス但共人員ハ二百人以內トス

附則

第五條 島司ノ年俸ハ千二百圓トス

○

第六條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
明治二十三年勅令第二百二十六號地方官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

朕造幣局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百二十一號(官報 七月二十七日)

造幣局官制中左ノ通改ム

第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 勅任
- 理事官 一人 奏任
- 技師 六人 奏任
- 屬 二十三人
- 技手 二十二八

內閣總理大臣兼大藏大臣伯耆松方正義

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ總理ス
 第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌リ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス
 第八條第二項左ノ如ク改ム
 造幣支局ノ長ハ本省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百四十號造幣局官制(明治二十三年七月二十五日官報抄録)

第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 奏任
 - 理事官 三人 奏任
 - 技師 五人 奏任
 - 技師試補 二人
 - 屬 三十八人
 - 技手 二十四人
- 第三條 局長ハ勅任ニ等以下奏任ニ等以上トシ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス
 第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌リ局長事故アルトキハ上附理事官之ヲ代理ス
 第八條第二項
 造幣支局長ノ事務ハ理事官ヲシテ之ヲ掌理セシム

○ 朕印刷局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百二十二號(官報七月二十七日)

印刷局官制中左ノ通改ム

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 奏任
- 理事官 一人 奏任
- 技師 三人 奏任
- 技師試補 一人 奏任
- 屬 四十八人
- 技手 六十八人

第三條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌リ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百四十一號印刷局官制(明治二十三年七月二十五日官報)抄録

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 局長 一人 奏任
- 理事官 二人 奏任

技師 三人 奏任
 技師試補 一人
 屬 四十五人
 技手 六十人

第三條 局長ハ勅任ニ等以下奏任ニ等以上トシ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス
 第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ分掌ス局長事故アルトキハ上席理事官之ヲ代理ス

朕稅關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯耆松方正義

勅令第三百二十三號(官報七月二十七日)

稅關官制中左ノ通改ム

第二條 稅關ニ左ノ職員ヲ置ク

稅關長 四人 奏任
 稅關副長 二人 奏任
 鑑定官 五人 奏任
 鑑定官試補 五人
 屬 二百七人
 鑑定吏 二十一人 判任
 監吏 二十四人 判任

監吏補 二百七十四人 判任

大阪稅關長ハ神戸稅關長若クハ副長之ヲ兼テ新潟稅關長ハ新潟縣收稅長之ヲ兼テ

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第四百四十二號稅關官制(明治二十三年七月二十五日官報抄録)

第二條 稅關ニ左ノ職員ヲ置ク

稅關長 六人 奏任
 稅關副長 二人 奏任
 鑑定官 五人 奏任
 鑑定官試補 五人
 屬 二百七人
 鑑定吏 二十一人 判任
 監吏 二十四人 判任
 監吏補 二百七十四人 判任六等

朕茲ニ造幣局印刷局稅關職員俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯耆松方正義

勅令第三百二十四號(官報七月二十七日)

明治二十四年七月 勅令 第三百二十四號

一九五

〔参照〕

勅令第六十七號陸軍給與令明治二十三年三月三十一日官報抄録

- 第八條 准士官以上在職ノ者ニハ其職務ニ從ヒ官等ニ應シ第二表ノ職務俸ヲ加給ス其區別左ノ如シ
- 一 在職將官並相當官參謀官高等官衛副官陸軍省局長同次長同課長同課員經理學校長砲兵司令部及同隊附佐尉官砲兵工廠提理近衛及師團各監督部長參謀本部編纂課長同課員陸地測量部長同各科長監軍部各兵監諸學校長同次長要塞砲兵幹部練習所長教導團長同次長近衛及師團各軍醫長各兵醫隊長大隊又ハ中隊長 警備隊司令官諸學校諸學舎要塞砲兵幹部練習所及ヒ教導團生徒隊附佐尉官諸學校諸學舎要塞砲兵幹部練習所及ヒ陸地測量部修技所教官ハ甲額ニ依ル
- 二 甲額及丙額ヲ給スルモノハ在職ノ者ハ總テ乙額ニ依ル
- 三 一等軍樂長及二等軍樂長砲兵上等監護工兵上等監護ノ在職者ハ丙額ニ依ル

第一表中

大	將	中	將	少
年	額	年	額	年
三	千	四	千	八
千	四	百	四	百
四	百	四	百	四
額	額	額	額	額

第二表中

大	將	中	將	少
年	額	年	額	年
甲	三	千	四	千
千	四	百	四	百
四	百	四	百	四
額	額	額	額	額

朕茲ニ理事錄事俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
陸軍大臣 子爵 高島綱之助

勅令第百二十六號 (官報 七月二十七日)

第一條 理事ノ勅任又ハ奏任トス其年俸ハ別表ニ依ル但奏任理事ニハ別表定ムル所ノ年俸最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 錄事ハ判任トス其俸給ハ本年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

附則

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
明治二十年勅令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

別表

勅任	奏任
三	三
千	千
四	四
額	額
一級二千四百圓	三級二千圓
二級二千二百圓	四級千八百圓
四級千八百圓	五級千六百圓
六級千四百圓	七級千二百圓
八級千	九級九百圓
十級八百圓	十一級七百圓
十二級六百圓	

朕茲ニ千任製絨所高等官俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
陸軍大臣 子爵 高島綱之助

勅令第百二十七號 (官報 七月二十七日)

千住製絨所高等官年俸左ノ如シ

所長

事務官

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

二千圓
千圓

朕茲ニ陸軍海軍諸學校文官教授俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣子爵樺山資紀
陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第百二十八號 (官報 七月二十七日)

陸軍海軍諸學校文官教授年俸左ノ如シ

一級

二級

三級

四級

五級

六級

千八百圓
千六百圓
千四百圓
千二百圓
千圓
九百圓

七級
八級
九級
十級

八百圓
七百圓
六百圓
五百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ陸軍編修俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第百二十九號 (官報 七月二十七日)

陸軍編修ノ年俸左ノ如シ

一級

二級

三級

四級

五級

六級

七級

千八百圓
千六百圓
千四百圓
千二百圓
千圓
九百圓
八百圓

内閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島鞆之助

八級 七百圓
 九級 六百圓
 十級 五百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○ 朕茲ニ陸地測量官俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百三十號(官報 七月二十七日)

陸地測量官ノ俸給ハ本年勅令第八十四號技術官俸給令ニ依ル

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○ 朕茲ニ海軍軍人俸給令ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百三十一號(官報 七月二十七日)

内閣總理大臣伯耆松方正義
海軍大臣子爵樺山資紀

海軍軍人俸給令

第一條 海軍高等武官ノ俸給ハ第一表准士官ノ俸給ハ第二表下士卒ノ俸給ハ第三表ニ依ル

第二條 准士官以上ニ修學ヲ命シタルトキ及符命者ニハ俸給十分ノ八ヲ給シ休職者ニハ俸給十分ノ六ヲ給ス

第三條 大佐及同等官ノ一級俸ヲ給スル人員ハ現役員(休職者停職者ヲ以下同シ)ノ半數ヲ過クルコトヲ得

大尉及同等官ノ一級俸二級俸及三級俸ヲ給スル人員ハ現役員ノ四分ノ一ヲ過クルコトヲ得

少尉及同等官ノ一級俸ヲ給スル人員ハ現役員ノ半數ヲ過クルコトヲ得

第四條 候補生ニハ日給八十錢ヲ給ス又修學(練習トシテ乘艦ヲ命シタルトキ)ハ日給六十錢ヲ給ス

第五條 下士卒ノ定員俸ハ定員ニ準スヘキ服役者ニ給シ員外俸ハ定員外ニ在ル者ニ給ス

第六條 士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ上官ノ最下級俸ヲ給ス

第七條 下士ニ准士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ准士官ノ最下級俸ヲ給ス

第八條 善行章ヲ有スル者ニハ一線毎ニ一日一錢ノ加俸ヲ給ス

第九條 砲術教授適任證書及水雷術教授適任證書ヲ有スル者ニハ一日四錢一等學砲證書及一等學水雷證書ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス但同種類ノ證書證狀ヲ併有スル者ニハ其證書ニ就キ之ヲ給ス

第十條 准士官以上及候補生左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ俸給十分ノ三ヲ給ス

一 停職ヲ命シタルトキ

二 處罰中

三 被告人ト爲リ遞傳護送留置收禁拘留中但審問ノ後無罪ト爲リタルトキハ此限ニアラス

四 禁錮ニ處セラレ其官ヲ失ハサルトキ

第十一條 下士卒左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間俸給及加俸ヲ給セス

一 海軍部外ノ各廳へ貸與シタルトキ但素樂ノ爲メ一時貸與スル軍樂員ハ此限ニアラス

二 願ニ依リ歸郷シタルトキ

三 被告人ト爲リ遞傳護送留置收禁拘留處刑中但審問ノ後無罪ト爲リタルトキハ此限ニアラス

四 擅ニ艦船團隊若クハ職役ヲ離レタルトキ

第十二條 下士卒處罰中ハ俸給十分ノ二ヲ給シ加俸ヲ給セス

第十三條 下士卒左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ俸給十分ノ四ヲ給ス但公務ニ原因シタルトキ

又ハ外國出張中若クハ航海中ニ在ルトキハ其全額ヲ給ス

一 傷痍疾病ニ依リ入院若クハ陸地療養ノトキ

二 陸上勤務外宿中傷痍疾病ニ依リ缺勤一週以上ニ及フトキ

三 公務出張中傷痍疾病ニ依リ缺勤一週以上ニ及フトキ

第十四條 死亡者若クハ逃亡者ニ給スヘキ金額アルトキハ其家族ノ請求ニ依リ之ヲ下付ス

第十五條 艦船ノ乘員航海中ハ俸給ノ半額ヲ其家族ニ下渡スコトヲ得

第十六條 准士官以上ノ俸給ハ三百六十五分シ其月ノ日數ニ應シ給スルモノトス但太平洋渡航ニ當リ日數ニ一日ノ増減アルトキハ曆ノ日數ニ依ル又二月ハ閏年ト雖モ二十八日分ヲ給ス

第十七條 俸給及加俸ハ毎月下旬ニ於テ之ヲ給ス

第十八條 豫備後備ノ准士官以上ヲ召集シタルトキハ現役者ニ準シ相當ノ俸給ヲ給ス

第十九條 豫備兵後備兵及歸休兵ヲ召集シタルトキハ現役者ニ準シ相當ノ俸給ヲ給ス

第二十條 豫備後備ノ准士官以上豫備兵後備兵及歸休兵ノ召集服役中給與ノ制ハ總テ本令ニ依ルモノトス

第二十一條 第十條第二第三第四第十一條第三第四及第十二條ハ海軍軍醫ニ適用ス

第二十二條 本令ニ關スル細則ハ海軍大臣大藏大臣ト商議シ之ヲ定ム

第二十三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

附則

第一表 海軍高等武官俸給表

大將	中將	少將及 同少將官	大佐及 同大佐官	少佐及 同少佐官	大尉及 同大尉官	少尉及 同少尉官
年俸 六千圓	四千圓	三千三百圓	二千八百圓	二千三百圓	一千八百圓	一千四百圓

第二表 海軍准士官俸給表

一級	二級	三級	四級	五級
年俸 五百四十圓	四百二十圓	四百七十四圓	四百五十四圓	三百五十七圓

第三表 海軍下士卒俸給表

一等下士	二等下士	三等下士	卒
日當 七十圓	五十九圓	四十八圓	三十七圓

朕茲ニ主理録事俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百三十二號(官報 七月二十七日)

第一條 主理ハ勅任又ハ委任トス其年俸ハ別表ニ依ル但委任主理ニハ別表定ムル所ノ年俸最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 録事ハ判任トス其俸給ハ本年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十年勅令第五十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

別表

勅任	奏	任
三千圓	一級二千四百圓	七級千二百圓
	二級二千三百圓	八級千
	三級二千圓	九級九百圓
	四級千八百圓	十級八百圓
	五級千六百圓	十一級七百圓
	六級千四百圓	十二級六百圓

朕茲ニ海軍編修俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第三百二十三號(官報 七月二十七日)

海軍編修ノ年俸左ノ如シ

一級

千二百圓

二級

千圓

三級

八百圓

四級

六百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ判事檢事俸給ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百二十四號(官報 七月二十七日)

判事檢事俸給令

第一條 判事檢事ノ年俸ハ別表定ムル所ニ依ル

第二條 判事檢事ノ各職ニ付其人員及年俸ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

長

一人

五千圓

内閣總理大臣伯耆松方正義
司法大臣子爵田中不二麻呂

部長	三人
勅任	三千五百圓
判事	二十七人
勅任及奏任	三千圓乃至千六百圓
大審院檢事局	一人
檢事總長	一人
勅任	四千圓
檢事	五人
勅任及奏任	三千圓乃至千六百圓
控訴院	七人
長	七人
勅任	東京 四千圓
部長	其他 三千五百圓
奏任	十五人
判事	二千二百圓乃至千四百圓
奏任	八十五人
控訴院檢事局	千二百圓乃至九百圓
檢事長	七人
勅任	東京 三千五百圓
	其他 三千圓

檢事	二十人
奏任	二千圓乃至九百圓
地方裁判所	四十八人
長	東京 二千五百圓
奏任	其他 二千二百圓乃至千四百圓
部長	九十八人
奏任	千二百圓乃至九百圓
判事	四百十五人
奏任	八百圓乃至六百圓
地方裁判所檢事局	四十八人
檢事正	東京 二千二百圓
奏任	大阪 二千二百圓
檢事	其他 二千圓乃至千二百圓
奏任	百二十五人
區裁判所	八百圓乃至六百圓
判事	八百四十八人
奏任	八百圓乃至六百圓
區裁判所檢事局	二百七十五人
檢事	八百圓乃至六百圓
奏任	二百七十五人

第三條 豫備判事ハ其人員ヲ二十五人トシ豫備檢事ハ其人員ヲ十五人トス
 豫備判事豫備檢事ハ奏任トシ年俸四百圓ヲ給ス
 司法官試補ハ其人員ヲ百八十人トス
 司法官試補ハ其待遇ヲ奏任トシ年俸三百圓以下ヲ給ス
 第四條 第二條ノ各職中年俸ニ等差アルモノハ每俸平等ニ其人員ヲ定ム但端數ノ人員ヲ生スルトキハ最下級ヨリ漸次上級ノ人員ニ併合ス
 第五條 裁判所構成法第六十二條ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ニシテ直チニ補職スル者ハ奏任トシ最下級ノ年俸ヲ給ス豫備判事又ハ豫備檢事ニシテ補職スル者モ亦同シ
 裁判所構成法第六十五條第一項ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ハ其補スヘキ職ノ最下ノ年俸ヲ給ス
 判事又ハ檢事ニシテ他ニ轉官シ若ハ退官シタル者ヲ更ニ判事又ハ檢事ニ任スルトキハ前官ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ヲ給ス
 第六條 判事又ハ檢事ノ進級ハ關員アルトキニ限り之ヲ行フ
 第七條 判事又ハ檢事ノ進級ハ第二條ニ掲ケタル各職毎ニ先任ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但區裁判所判事ハ地方裁判所判事ト併合シ區裁判所檢事局檢事ハ地方裁判所檢事局檢事ト併合シテ先任順序ヲ定メ進級セシム
 大審院ノ部長判事大審院檢事局ノ檢事總長檢事控訴院ノ部長判事控訴院檢事局ノ檢事長檢事地方裁判所ノ部長及地方裁判所檢事局ノ檢事正ノ補職ハ拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得但其補スヘキ職ノ最下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得ス
 東京大阪控訴院ノ長同院檢事局ノ檢事長及東京大阪地方裁判所ノ長同地方裁判所檢事局ノ檢事正ノ補職モ亦拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得
 東京京都大阪橫濱神戸長崎名古屋廣島仙臺熊本ノ各地方裁判所檢事局檢事ノ補職ハ二十八人ヲ限リ拔擢ヲ以テ之ヲ行フハ八級九級ノ年俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 地方裁判所判事ニシテ豫審ヲ爲スコトヲ命セラレタル者ハ百人ヲ限リ其事務取扱中一箇年百圓以内ノ加俸ヲ之ニ給スルコトヲ得
 第九條 判事檢事ノ各職ニ於ケル先任順序ハ年俸ノ多寡ニ依リ年俸相同シキモノハ年俸下賜辭令ノ日付ニ依ル
 判事檢事ノ裁判所内ニ於ケル席次ハ前項ノ規程ニ從フ
 第十條 判事又ハ檢事轉職又ハ轉任スルトキハ前職ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ前職ノ年俸下賜辭令ノ日付ニ依リ後職ノ先任順序ヲ定ム
 待命ノ判事又ハ檢事補職セラレ又ハ轉任シテ補職セララルトキ及司法行政官吏ニシテ判事檢事タルノ資格ヲ有スル者判事又ハ檢事ニ轉任シテ補職セララルトキモ亦同シ
 退職ノ判事又ハ檢事補職セラレ又ハ轉任シテ補職セララルトキモ亦同シ但後職ノ年俸下賜辭令ノ日付ニ依リ先任順序ヲ定ム
 附則
 第十一條 本令施行ノ際年俸二千四百圓以下ノ奏任官ニシテ俸給減額四百圓ニ相當スル者ハ之ヲ二百圓ノ減額ニ止ムルコトヲ得
 第十二條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
 明治二十三年勅令第五百十八號判事檢事官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 別表

判事檢事年俸表

勅	任	俸	任
一級	二級	三級	四級
五級	六級	七級	八級
九級	十級	十一級	十二級
五千圓	四千圓	三千圓	二千圓
一千五百圓	一千圓	七百圓	六百圓

〔參照〕

法律第六號裁判所構成法(明治二十三年二月十日官報)抄録
第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル候補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルコトヲ得
第六十五條第一項
三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試験ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルコトヲ得

朕茲ニ裁判所書記長書記俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
司法大臣 子爵田中不二麻呂

勅令第三百三十五號(官報 七月二十七日)

裁判所書記長書記俸給

第一條 裁判所書記長ハ奏任トス

裁判所書記ハ判任トス

裁判所書記見習ハ其待遇ヲ判任トシ月俸七圓以下ヲ給ス但特ニ拾圓マテヲ給スルコトアルヘシ

第二條 裁判所書記ノ各職ニ付其人員ヲ限定スルコト左ノ如シ

- 大審院 書記長 一人 年俸千二百圓
- 裁判所書記 二十人
- 大審院檢事局 書記長 一人
- 裁判所書記 五人

控訴院

書記長 七人 年俸千四百圓

裁判所書記 百四十五人 年俸九百圓

控訴院檢事局 書記長 一人

裁判所書記 二十五人

地方裁判所 書記長 一人

地方裁判所書記 七百七十五人

地方裁判所檢事局 書記長 一人

裁判所書記 百五十八人

區裁判所 書記長 一人

區裁判所書記 四千六百人

區裁判所檢事局 書記長 一人

裁判所書記 四百八十五人

附 則

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第五百十九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十三年八月四日勅令第五百十九號ハ裁判所書記長書記官等俸給ナリ

朕茲ニ帝國大學職員定員ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百三十六號(官報七月二十七日)

第一條 帝國大學職員定員左ノ如シ

- 總長 一人
- 分科大學長 六人
- 教頭 六人
- 書記官 專任二人
- 會監 專任二人
- 書記 七十三人
- 技手 百十人

第二條 教授助教授ノ人員ハ學科ノ種類其受持ノ都合ニ依リ隨時別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 總長ハ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教授助教授ノ外外國教師ヲ雇入レ又ハ俸給豫算

第四條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二百七十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(參照) 勅令第二百七十號帝國大學職員官等定員(明治二十三年十一月七日官報)抄録

内閣總理大臣伯耆松方正義
文部大臣伯耆大木喬任

- 校長 一人
- 分科大學長 六人
- 教頭 六人
- 教授 百十八人
- 特ニ勅任トナスモノハ勅任ニ等トス但人員十二人以内トス
- 書記官 三人
- 助教授 六十七人
- 會監 六人
- 書記 七十六人
- 技手 百十二人

朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百三十七號(官報七月二十七日)

文部省直轄諸學校官制

通則

第一條 文部省直轄高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校高等中學校東京工業學校東京美術學校東京音樂學校東京官立學校ニ各左ノ職員ヲ置ク但教官ノ人員ハ學科ノ種類其受持ノ都合

内閣總理大臣伯耆松方正義
文部大臣伯耆大木喬任

及生徒ノ員數ニ應シ隨時別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム又書記ノ定員並特ニ各學校ニ就キ規定スルモ
ノハ各學校ノ部ニ之ヲ掲ク

學校長

一八

奏任

但高等師範學校長及女子高等師範學校長ハ特ニ勅任トナスコトアルヘシ

教授

奏任

助教

判任

舍監

專任二人

奏任

書記

判任

第二條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第三條 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

助教ハ教授ノ職掌ヲ助グ

第四條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第六條 學校長ハ校務上ノ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教官ノ外外國教師ヲ雇入レ又ハ俸給
豫算定額内ニ於テ講師ヲ囑託シ及雇員ヲ使用スルコトヲ得

第七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大
臣之ヲ命ス

高等師範學校

第八條 高等師範學校ハ師範學校中學校及小學校ノ教員ヲ養成スル所トス

第九條 高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置ク

第十條 高等師範學校ニ東京教育博物館ヲ附設ス

東京教育博物館ハ普通教育ニ關スル諸般ノ物品ヲ陳列シ參考ニ便スル所トス

第十一條 高等師範學校ニ特ニ左ノ職員ヲ置ク

教諭

奏任

附屬中學校生徒ノ授業ヲ掌ル

助教諭

判任

教諭ノ職掌ヲ助ク

訓導

判任

附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル

技手

判任

上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ

第十二條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬學校主事及東京教育博物館主事ヲ命シ共事務ヲ掌ラシム

第十三條 書記ハ九人技手ハ五人ヲ以テ定員トス

女子高等師範學校

第十四條 女子高等師範學校ハ女子師範學校高等女學校及小學校ノ女教員並幼稚園ノ保姆ヲ養成
スル所トス

第十五條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第十六條 女子高等師範學校ニ特ニ左ノ職員ヲ置ク

教諭

奏任

附屬高等女學校生徒ノ授業ヲ掌ル

助教諭

判任

教諭ノ職掌ヲ助ク

訓導 判任

附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル
保母 判任

附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十七條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬學校主事及附屬幼稚園主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第十八條 書記ハ六人ヲ以テ定員トス

高等商業學校

第十九條 高等商業學校ハ商務ヲ處理經營スヘキ者又ハ商業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二十條 高等商業學校ニ附屬主計學校ヲ置ク

附屬主計學校ハ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ關スル必須ノ學科及實務ヲ教授スル所トス

第二十一條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬主計學校主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第二十二條 書記ハ十人ヲ以テ定員トス

高等中學校

第二十三條 高等中學校ハ高等ノ普通教育ヲ授ケ及大學並高等專門學科ノ學習ニ須要ナル豫備ヲ爲サシムル所トス

高等中學校ハ全國ヲ五區ニ分畫シ每區ニ一校ヲ置キ第一高等中學校第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校第五高等中學校トス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十四條 高等中學校ハ法科文科理科醫科工科農科商科等ノ專門學部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ專門學部主事ヲ命シ部務ヲ掌ラシム

第二十六條 諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ關スル高等中學校ハ山口高等中學校及鹿

兒島高等中學校士館トス

第二十七條 山口高等中學校及鹿兒島高等中學校士館ハ總テ此官制ノ規定ニ依ル

第二十八條 各高等中學校書記ノ定員左ノ如シ

第一高等中學校 十四人

第二高等中學校 六人

第三高等中學校 十三人

第四高等中學校 六人

第五高等中學校 十八人

山口高等中學校 五人

鹿兒島高等中學校 五人

東京工業學校

第二十九條 東京工業學校ハ職工長又ハ工業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第三十條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

附屬職工徒弟學校ハ主トシテ木工若クハ金工ヲ業トスル者ノ子弟ニ實業ヲ授ケ適良ノ職工ヲ養成スル所トス

第三十一條 東京工業學校ニ舎監ヲ置カス

第三十二條 東京工業學校ニ特ニ技手ヲ置ク判任トス

技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ

第三十三條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬職工徒弟學校主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第三十四條 書記ハ六人技手ハ十人ヲ以テ定員トス

東京美術學校

- 第三十五條 東京美術學校ハ繪畫彫刻建築及美術工藝ノ技術者又ハ普通ノ圖畫教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第三十六條 東京美術學校ニ舍監ヲ置カス
- 第三十七條 東京美術學校ニ特ニ技手ヲ置ク判任トス
技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ
- 第三十八條 書記ハ五人技手ハ二人ヲ以テ定員トス
東京音樂學校
- 第三十九條 東京音樂學校ハ音樂師又ハ音樂教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第四十條 東京音樂學校ニ舍監ヲ置カス
- 第四十一條 書記ハ四人ヲ以テ定員トス
東京盲啞學校
- 第四十二條 東京盲啞學校ハ盲啞教育法ノ模範ヲ示シ兼テ盲啞ヲ教育スル所トス
- 第四十三條 東京盲啞學校ニ第一條ニ定ムル所ノ教授助教授及舍監ヲ置カス左ノ職員ヲ置ク
教諭 兼任
助教諭 判任
- 第四十四條 教諭ハ生徒ノ授業ヲ掌リ助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク
- 第四十五條 書記ハ二人ヲ以テ定員トス
附則
- 第四十六條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

御名 御璽

朕東京圖書館官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年七月二十四日
勅令第三百二十八號(官報 七月二十七日)

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
文部大臣 伯爵 大木喬任

東京圖書館官制

- 第一條 東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外古今ノ圖書記録ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱覽參考ノ用ニ供スル所トス
- 第二條 東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク
館長 一人 兼任
司書 六人 判任
書記 三人 判任
- 第三條 館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス
- 第四條 司書ハ館長ノ命ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第五條 書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
- 第六條 館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得
- 第七條 文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ東京圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス
附則
- 第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ帝國大學文部省直轄諸學校及圖書館高等官俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第三百三十九號(官報 七月二十七日)

帝國大學文部省直轄諸學校及圖書館高等官俸給令

第一條 帝國大學文部省直轄諸學校及圖書館高等官ノ年俸左ノ如シ

帝國大學高等官

總長

教授

書記官

助教授

舍監

高等師範學校高等官

學校長

教授

教諭

舍監

四千圓

一號表ニ依ル

但勅任教授ニアラサレハ二級以上ノ年俸ヲ給スルコトヲ得ス

一級九百圓

二級九百圓

一號表ニ依ル

一級九百圓

二級八百圓

二千五百圓

二號表ニ依ル

二號表ニ依ル

一級五百圓

二級四百圓

內閣總理大臣 伯爵 松方正義

文部大臣 伯爵 大木喬任

女子高等師範學校高等官

學校長

教授

教諭

舍監

高等商業學校高等官

學校長

教授

舍監

各高等中學校高等官

學校長

教授

舍監

東京工業學校高等官

學校長

教授

東京美術學校高等官

學校長

教授

東京音樂學校高等官

教授

二千圓

二號表ニ依ル

二號表ニ依ル

一級二百五十圓

二級二百圓

二千圓

二號表ニ依ル

一級五百圓

二級四百圓

二千圓

二號表ニ依ル

一級五百圓

二級四百圓

二千圓

二號表ニ依ル

二千圓

二號表ニ依ル

二千圓

二號表ニ依ル

學校長 二千圓
 教授 二號表ニ依ル
 東京官立學校高等官 八百圓
 學校長 二號表ニ依ル
 教授 二號表ニ依ル
 東京圖書館高等官 千二百圓

第二條 帝國大學書記官含監及直轄諸學校檢査ハ一級俸二級俸各一人トス
 第三條 教官ニシテ教官ニアラサル官吏ニ兼任シ又教官ニアラサル官吏ニシテ教官ニ兼任スル者ハ同廳内ト雖モ兼官相當ノ年俸三分ノ一以内ヲ増給スルコトヲ得
 第四條 教官ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ別表ニ掲クル年俸最低額以下ヲ給スルコトアルヘシ

第五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

(別表)

一號表

官名	年俸	等級
帝國大學分科大學教授	二級 三千八百圓	三級 二千五百圓
帝國大學分科大學助教授	二級 二千八百圓	三級 二千二百圓
帝國大學分科大學教授	二級 二千二百圓	三級 一千八百圓
帝國大學分科大學助教授	二級 一千八百圓	三級 一千四百圓
帝國大學分科大學教授	二級 一千四百圓	三級 一千二百圓
帝國大學分科大學助教授	二級 一千二百圓	三級 一千圓
帝國大學分科大學教授	二級 一千圓	三級 八百圓
帝國大學分科大學助教授	二級 八百圓	三級 六百圓
帝國大學分科大學教授	二級 六百圓	三級 四百圓
帝國大學分科大學助教授	二級 四百圓	三級 二百圓

二號表

官名	年俸	等級
文部省直轄諸學校教授	二級 二千八百圓	三級 二千四百圓
文部省直轄諸學校助教授	二級 二千二百圓	三級 一千八百圓
文部省直轄諸學校教授	二級 一千八百圓	三級 一千四百圓
文部省直轄諸學校助教授	二級 一千四百圓	三級 一千二百圓
文部省直轄諸學校教授	二級 一千二百圓	三級 一千圓
文部省直轄諸學校助教授	二級 一千圓	三級 八百圓
文部省直轄諸學校教授	二級 八百圓	三級 六百圓
文部省直轄諸學校助教授	二級 六百圓	三級 四百圓
文部省直轄諸學校教授	二級 四百圓	三級 二百圓

朕茲ニ帝國大學教授助教授ノ人員ニ關スル件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

內閣總理大臣 伯耆松方正義

文部大臣 伯耆大木喬任

勅令第四百十號(官報七月二十七日)

明治二十四年勅令第四百二十六號第二條ニ依リ教授助教授ノ人員ヲ定ムルコト左ノ如シ但兼任ハ此限ニアラス

教授 七十五人
 助教授 五十八人

朕茲ニ文部省直轄諸學校教官ノ人員ニ關スル件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣伯爵大木喬任

勅令第四百四十一號(官報七月二十七日)

明治二十四年勅令第三百二十七號文部省直轄諸學校官制第一條ニ依リ文部省直轄諸學校教官ノ人員ヲ定ムルコト左ノ如シ但兼任ハ此限ニアラス

高等師範學校

教授 十五人

助教授 四人

教諭 五人

助教諭 五人

訓導 十人

女子高等師範學校

教授 十二人

助教授 四人

教諭 五人

助教諭 十人

訓導 十二人

保姆 五人

高等商業學校

教授 十五人

助教授 二十二二人

高等中學校

第一高等中學校 教授 四十五人

第二高等中學校 教授 二十三人

第三高等中學校 教授 三十五人

第四高等中學校 教授 二十人

第五高等中學校 教授 二十五人

山口高等中學校 教授 十八人

鹿兒島高等中學校 教授 十八人

東京工業學校 教授 十人

助教授 十八人

教授 十三人

東京美術學校 教授 十一人

助教授 十人

東京音樂學校 教授 五人

助教授 五人

東京盲啞學校 教授 三人

助教諭 三人

朕札幌農學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第四百四十二號(官報 七月二十七日)

札幌農學校官制

第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農業ニ關スル學術技藝ヲ教授スル所トス
本校ハ留分生徒中ヨリ屯田兵士官出身志願者ヲ選ヒ屯田兵士官ニ要スル軍事上ノ學術技藝ヲ授
授シ又屯田兵豫備下士ニ屯田兵豫備將校ニ要スル軍事上ノ學術技藝ヲ教授ス

第二條 札幌農學校ニ左ノ職員ヲ置ク
學校長 一人 奏任
教授 八人 奏任
助教授 十八 判任
舍監 專任一人 奏任
書記 六人 判任
校手 六人 判任
第三條 學校長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス
第四條 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル
助教授ハ教授ノ職掌ヲ助ク

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
文部大臣 伯爵 大木喬任

第五條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル
第六條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
第七條 校手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ従事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ
第八條 北海道廳長官ハ校務上ノ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教官ノ外外國教師ヲ雇入ル、
コトヲ得又學校長ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ俸給豫算定額内ニ於テ講師ヲ囑託シ又ハ雇員ヲ
使用スルコトヲ得
第九條 北海道廳長官ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ北海道廳
長官之ヲ命ス
附則

第十條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ札幌農學校高等官俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第四百四十三號(官報 七月二十七日)

第一條 學校長舍監ノ年俸左ノ如シ

學校長 二千圓
舍監 五百圓

第二條 教授ノ年俸ニ關シテハ本年勅令第三百二十九號帝國大學文部省直轄諸學校及圖書館高等官

内閣總理大臣 伯爵 松方正義
文部大臣 伯爵 大木喬任

俵給令第二號表中文部省直轄諸學校教授年俵表並第二條第四條ヲ適用ス

附則

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕大小林區署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第四百四十四號 (官報 七月二十七日)

大小林區署官制

第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ施業ニ關スル事項

二 官林ノ產物賣拂ニ關スル事項

三 官林ノ境界調査分合ニ關スル事項

四 官林ノ賣拂及貸渡ニ關スル事項

五 小林區署業務監督ニ關スル事項

第二條 大林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

林務官

技師

林務官補

書記

第三條 林務官ハ奏任トシ十六人ヲ以テ定員トス大林區署長トナリ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ十六人ヲ以テ定員トス各大林區署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌ル

第五條 林務官補ハ判任トシ八十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第六條 書記ハ判任トシ二百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ保護ニ關スル事項

二 官林ノ栽培及土功ニ關スル事項

三 官林ノ產物採取及賣拂ニ關スル事項

四 官林ノ測量製圖ニ關スル事項

第八條 小林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

營林主事

營林主事補

森林監守

第九條 營林主事ハ判任トシ三百八十七人ヲ以テ定員トス小林區署長トナリ上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第十條 營林主事補ハ判任トシ六百八十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第十一條 森林監守ハ判任トシ七百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ官林ノ保護ニ従事ス

第十二條 農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ營林主事又ハ營林主事補ヲ大林區署ニ臨時勤務セシム

ルコトヲ得

第十三條 大小林區署ノ名稱位置並管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則

第十四條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕鑛山監督署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第四百四十五號 (官報 七月二十七日)

鑛山監督署官制

第一條 鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛業條例ノ定ムル所ニ依リ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鑛山監督署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

鑛山監督官

技師

書記

技手

第三條 鑛山監督官ハ奏任トシ六人ヲ以テ定員トス鑛山監督署長トナリ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ十人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條 書記ハ判任トシ四十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 技手ハ五十八人ヲ以テ定員トス

第七條 農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ鑛山監督支署ヲ置キ鑛山監督署員ヲ分派スルコトヲ得

第八條 鑛山監督署及鑛山監督支署ノ名稱位置並管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則

第九條 本令ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

朕茲ニ富岡製絲所大小林區署鑛山監督署職員俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵松方正義
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第四百四十六號 (官報 七月二十七日)

第一條 富岡製絲所大小林區署鑛山監督署高等官ノ年俸左ノ如シ

富岡製絲所長

林務官

鑛山監督官

大林區署技師

鑛山監督署技師

千八百圓

別表ニ依ル

別表ニ依ル

別表ニ依ル

別表ニ依ル

第二條 大小林區署鑛山監督署判任官ノ月俸左ノ如シ
 林務官補 判任官俸給八級以上
 大林區署書記 判任官俸給三級以下
 營林主事 判任官俸給三級以下
 營林主事補 二十五圓以下八圓以上
 森林監守 十二圓以下五圓以上

附則

第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
 明治二十三年勅令第四百二十八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

別表

官名	年俸	等級
林務官	一級 千五百圓	二級 千二百圓
大林區署技師	一級 八百圓	二級 七百圓
鑛山監督官	一級 千五百圓	二級 千二百圓
鑛山監督技師	一級 千二百圓	二級 千圓
		三級 八百圓
		四級 六百圓
		三級 六百圓
		四級 八百圓
		四級 六百圓

〔參照〕

勅令第四百二十八號(明治二十三年七月十七日官報)

林務官補書記營林主事ノ俸給ハ判任官官等俸給令ニ依ル

營林主事補判任五等ノ俸給ハ月俸二十五圓以下十八圓以上判任六等ノ俸給ハ月俸十五圓以下八圓以上トシ森林監守ノ俸給ハ月俸十二圓以下五圓以上トス

朕郵便及電信局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第四百四十七號(官報 七月二十七日)

郵便及電信局官制

第一條 郵便電信ノ業務ヲ執行スル爲地方ニ郵便電信局郵便局及電信局ヲ置キ遞信大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條 郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク
 局長
 書記
 技手

書記補

東京及大阪一等郵便電信局ニ限リ各事務官一人技師一人ヲ置ク
 第三條 郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク
 局長
 書記
 書記補

第四條 電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

明治二十四年七月 勅令 第四百四十七號

内閣總理大臣 伯耆松方正義
 遞信大臣 伯爵後藤象二郎

局長
書記
技手
書記補

第五條 郵便電信局郵便局及電信局ノ等級ヲ分テ各一等二等三等トス

第六條 一等郵便電信局ノ局長ハ奏任又ハ判任トス其奏任ヲ以テ局長ニ任スル局ノ位置左ノ如シ
東京 大阪 横濱 神戸
長崎 京都 函館 新潟
名古屋 熊本 仙臺 廣島

一等郵便局電信局二等三等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ判任トス

郵便電信局長郵便局長電信局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第七條 事務官ハ奏任トス局長ノ指揮ヲ承ケ郵便ノ業務ヲ掌理シ局長事故アルトキ之ヲ代理ス

第八條 技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ電信ノ業務ヲ掌理ス

第九條 書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ承ケ郵便又ハ電信ノ業務ニ從事シ事務官ヲ置カサル局ニ於テハ局長事故アルトキ之ヲ代理ス

第十條 技手ハ局長ノ指揮ヲ承ケ電信ノ業務ニ従事ス

第十一條 書記補ハ判任トス書記ノ事務ヲ助ク

第十二條 書記書記補ハ二千八百七十六人ヲ以テ定員トス

第十三條 技手ハ九百四十七人ヲ以テ定員トス

第十四條 一等郵便電信局一等郵便局ハ遞信大臣ノ指定スル區域内ノ郵便電信局郵便局及電信局ノ業務ヲ監督ス

附則
第十五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕郵便爲替貯金管理所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日
勅令第四百四十八號(官報七月二十七日)

内閣總理大臣 伯耆松方正義
遞信大臣 伯爵後藤象二郎

郵便爲替貯金管理所官制

第一條 郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替及郵便貯金ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條 郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
事務官
書記
書記補

第三條 郵便爲替貯金管理所長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 事務官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ従事ス

第六條 書記補ハ判任トス書記ノ事務ヲ助ク

第七條 書記書記補ハ五百八十七人ヲ以テ定員トス
第八條 遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ其事務ヲ分掌セシメ事務官ヲ以テ所長ニ充ルコトヲ得

附則

第九條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
明治二十三年勅令第百十三號郵便爲替貯金局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

朕航路標識管理所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
遞信大臣 伯爵後藤象二郎

勅令第四百四十九號(官報 七月二十七日)

航路標識管理所官制

第一條 航路標識管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ航路標識ノ工事及其保守ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 航路標識管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

書記

技手

看守

第三條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス航路標識管理所長ト爲リ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中全部ノ事務

ヲ掌理ス

第四條 書記ハ判任トシ二十三人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第五條 技手ハ十六人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ従事ス

第六條 看守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ従事ス其定員ヲ定ムルコト左ノ如シ

一等燈臺

各三人

二等燈臺

三等燈臺

各二人

四等燈臺

五等燈臺

六等燈臺

等外燈臺

燈船

二八

霧警號

二八

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ航路標識看守豫備員十五人マテヲ置クコトヲ得

附則

第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕船舶司檢所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第五百五十一號(官報 七月二十七日)

船舶司檢所官制

第一條 船舶司檢所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ海員水先ハノ試験、審問、船舶ノ検査、測度、新造船ノ工事監督ヲ掌ル所トス

第二條 船舶司檢所ハ東京大阪長崎函館其他遞信大臣必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク

第三條 船舶司檢所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

司檢官

司檢官補

書記

第四條 所長ハ司檢官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中全部ノ事務ヲ掌理ス

第五條 司檢官ハ奏任トシ十八ヲ以テ定員トス各船舶司檢所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌シ若クハ管船局ノ課長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス

第六條 司檢官補ハ判任トシ十二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七條 書記ハ判任トシ十二人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣伯爵後藤象二郎

朕電信建築監督官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第五百五十一號(官報 七月二十七日)

電信建築監督官制

第一條 電信建築監督ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電線建設電機裝置及其保存ニ關スル事務ヲ掌ル所トス其名稱位置及所轄區域ヲ定ムル左ノ如シ

名	稱	位	置	管	轄	區	域
東京電信建築監督	武藏國	東京	長野	靜岡	埼玉	群馬	東京府
大阪電信建築監督	攝津國	大阪	京都	兵庫	奈良	和歌山	大阪府
札幌電信建築監督	石狩國	札幌	北海	道			札幌府
仙臺電信建築監督	陸前國	仙臺	秋田	宮城	青森	岩手	仙臺府

熊本電信建築署	肥後國熊本	鹿大長熊見分岐島縣縣縣縣	宮佐福崎賀岡縣縣縣縣
廣島電信建築署	安藝國廣島	高香山廣知川口島縣縣縣縣	愛島岡媛根山縣縣縣縣
名古屋電信建築署	尾張國名古屋	富福愛山井知縣縣縣縣	石岐川卓縣縣縣縣

第二條 電信建築署ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

書記

技手

第三條 技師ハ七八ヲ以テ定員トス電信建築署長ト爲リ逓信大臣ノ命ヲ承ケ署中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 書記ハ判任トス署長ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ従事ス

第五條 技手ハ署長ノ指揮ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

附則

第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕電話交換局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

勅令第五百五十二號(官報七月二十七日)

電話交換局官制

内閣總理大臣伯耆松方正義
逓信大臣伯耆後藤象二郎

第一條 電話交換局ハ逓信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

技師

書記

技手

第三條 技師ハ二人ヲ以テ定員トス電話交換局長トナリ逓信大臣ノ命ヲ承ケ局中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ従事ス

第五條 技手ハ局長ノ指揮ヲ承ケ電話線ノ建設電話機ノ裝置及其保存ニ關スル工事ヲ分掌ス

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕商船學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
逕信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第五百五十三號 (官報 七月二十七日)

商船學校官制中左ノ通改正ス

第四條 校長ハ一人委任トス 逕信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第八條中「十八」ヲ「十四」ニ改ム

第九條中「四人」ヲ「六人」ニ改ム

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

(參照)

勅令第四百五十五號商船學校官制(明治二十四年五月十六日官報)抄録

第四條 校長ハ一人逕信高等官之ヲ兼任ス 逕信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第八條 助教ハ十人判任トス 校長又ハ分校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職務ヲ佐ク

第九條 書記ハ四人判任トス 上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

朕東京郵便電信學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
逕信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第五百五十四號 (官報 七月二十七日)

東京郵便電信學校官制

第一條 東京郵便電信學校ハ逕信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 東京郵便電信學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條 校長ハ一人逕信省高等官之ヲ兼任ス 逕信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス 校長ノ監督ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ五人ヲ以テ定員トス 校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トシ八人ヲ以テ定員トス 校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第七條 書記ハ判任トシ六人ヲ以テ定員トス 上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

朕茲ニ郵便及電信局郵便爲替貯金管理所船舶司檢所航路標識管理所職員俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月 勅令 第五百五十五號

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
逕信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第五百五十五號(官報七月二十七日)

- 第一條 奏任ヲ以テ任スル一等郵便電信局長及司檢官ノ年俸ハ別表ニ依ル
- 第二條 郵便爲替貯金管理所長ノ年俸ハ二千圓トシ事務官ノ年俸ハ千圓八百圓各一人トス
- 第三條 東京一等郵便電信局事務官ノ年俸ハ千圓大阪一等郵便電信局事務官ノ年俸ハ八百圓トス
- 第四條 書記補ハ月俸十五圓以下五圓以上トス
- 第五條 三等郵便局長ハ俸給ヲ給セス一箇年四百圓以下ノ手當ヲ給ス其細則ハ逕信大臣之ヲ定ム
- 第六條 航路標識管理所看守ノ俸給ハ別表ニ依ル但一級俸ヲ受ケ三年ヲ踰ニサルモノニシテ殊ニ勞績アルモノハ三十圓マテ増俸スルコトヲ得

附則
第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

官名	年俸	等級
一等郵便電信局長	一級二千圓 二級千八百圓	三級千六百圓 四級千四百圓 五級千二百圓 六級千圓 七級八百圓
司檢官	一級千八百圓 二級千六百圓	三級千四百圓 四級千二百圓 五級千圓 六級九百圓 七級八百圓 八級七百圓
官名	月俸	等級
看守	一級二十五圓 二級二十圓	三級十五圓 四級十二圓 五級十圓

朕茲ニ逕信省所管學校職員俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
逕信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第五百五十六號(官報七月二十七日)

- 第一條 商船學校長ノ年俸ハ千八百圓トス
 - 第二條 商船學校教授東京郵便電信學校教授ノ年俸ハ別表ニ依ル
 - 教授ニシテ幹事ヲ兼ルモノハ教授年俸ノ外年俸二百圓以内ヲ給ス
- 附則
第三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

等級	年俸
一級	千四百圓
二級	千二百圓
三級	千圓
四級	九百圓
五級	八百圓
六級	七百圓
七級	六百圓
八級	五百圓

朕茲ニ海軍武官階ヲ定ムルノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第五百五十七號(官報 七月二十八日)

第一條 海軍武官階級ヲ定ムルコト左表ノ如シ

海軍武官階級表

將	上長官 又佐官	士官 又尉官	准士官	下
大將中將少將	大佐少佐大尉少尉	上等兵曹 二等兵曹 三等兵曹	一等信託手 二等信託手 三等信託手	一等兵曹 二等兵曹 三等兵曹
機技總監	機技部上長官 機技部士官	准機技部 機技部	一等機師 二等機師 三等機師	一等機師 二等機師 三等機師
機關大監 機關少監 大機關士 少機關士	大技監 少技監 大技士 少技士	船機師 匠師	一等船匠手 二等船匠手 三等船匠手	一等船匠手 二等船匠手 三等船匠手
軍醫總監	軍醫部上長官 軍醫部士官	准軍醫部 軍醫部	一等看護手 二等看護手 三等看護手	一等看護手 二等看護手 三等看護手
軍醫大監 藥劑大監 大藥劑官 少藥劑官	主計部上長官 主計部士官	主計部 准主計部	主計部 准主計部	主計部 准主計部
主計總監	主計大監 主計少監 大主計 少主計	主計部 准主計部	主計部 准主計部	主計部 准主計部

第二條 本令ハ明治二十四年八月十八日ヨリ施行ス
第三條 海軍武官等表ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第五百五十八號(官報 七月二十八日)

海軍造船工學校官制第一條左ノ通改正ス

第一條 海軍造船工學校ハ横須賀鎮守府造船部内ニ設ケ造船ニ従事スヘキ技手出身志願ノ生徒ヲ教育スル所トス

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔参照〕

勅令第七十四號海軍造船工學校官制(明治二十二年五月二十九日官報)抄録
第一條 海軍造船工學校ハ横須賀鎮守府造船部内ニ設ケ技手出身志願ノ生徒ヲ教育スル所トス

朕茲ニ海軍造船工學校生徒手當金規則中改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第五百五十九號(官報 七月二十八日)

海軍造船工學校生徒手當金規則第三條中「技工ニ任シタル」ヲ「技手見習ヲ命シタル」ト改ム
本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第五十三號海軍造船工學校生徒手當金規則(明治二十四年六月六日官報)抄録
第三條 手當金ハ生徒ヲ命シタル日ヨリ技工ニ任シタル前日マテ之ヲ給ス死亡若クハ生徒ヲ死シタルトキハ其當日マテ之ヲ給ス

朕茲ニ收税屬俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十七日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百六十號(官報 七月二十八日)

收税屬ノ俸給ハ本年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ラシム但俸給定額ノ都合ニヨリ十圓又ハ八圓ノ俸給ヲ支給スルコトヲ得
本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス明治二十三年勅令第七十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

勅令第七十五號(明治二十三年五月三日官報)
收税屬ハ判任官一等以下六等以上トシ其官等俸給ハ本年勅令第三十七號判任官官等俸給令ニ依ラシム但シ俸給定額ノ都合ニ依リ判任官六等ニハ拾圓又ハ八圓ノ俸給ヲ支給スルコトヲ得

朕茲ニ乘馬飼養令廢止ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年七月二十七日

内閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍 大臣子爵高島綱之助

勅令第百六十一號(官報 七月二十八日)

明治十七年太政官達第六十六號乘馬飼養令ヲ廢ス

朕豫備後備ノ軍籍ニアル文官陸軍召集條例ニ依リ召集中俸給支給方ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

御名 御璽

明治二十四年七月二十七日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百六十二號(官報 七月二十八日)

文官ニシテ豫備後備ノ軍籍ニアル者陸軍給與令第十八條ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ文官俸給ノ支給ヲ停止ス但其額文官俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ハ奉職官廳ニ於テ文官俸給ヨリ之ヲ補給ス

〔參照〕

勅令第六十七號陸軍給與令(明治二十三年三月三十一日官報)抄録
第十八條 豫備後備ノ准士官以上及ヒ下士官召集中ハ准士官以上ハ在職下士官ハ現役ニ準シ俸給ヲ給ス但シ一等給アルモノハ二等給ニ一等率ハ二等率ノ給料ニ依ル

朕北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年七月二十七日

農商務大臣陸奥宗光

勅令第六十三號 (官報 七月二十八日)

北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第六十四號 (官報 八月三日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第十條第五ヲ左ノ如ク改ム

五 警備隊下士兵卒ニシテ外泊ヲ許シタル者ニハ外泊加俸ヲ給シ二年以上在隊ノ曹長火工曹長

一等軍曹火工一等軍曹二等軍曹火工二等軍曹及上等兵看護手ニハ在隊加俸ヲ給ス

但現役中七箇年若クハ十箇年ヲ經過シタル曹長火工曹長一等軍曹火工一等軍曹二等軍曹

第三十四條第一項へ左ノ但書ヲ加フ

但豫備士官初任ノトキハ服裝手當ヲ軍隊ニ交付シ其服裝品ハ現品ヲ以テ該隊ヨリ之ヲ給ス

第六十五條中「分ツ」ヲ「分チ各共金額ヲ定ム」但汽車料船舶料車馬料ニ限り金額ニ據リ難キ場合ニ於

テハ實費拂ヲ爲スコトヲ得ニ改ム

第六十八條第八ヲ左ノ如ク改ム

八 新任若クハ採用ノ爲メ召喚セラレタル者但新任ノ者ニ在テハ新官等ニ依ル

第七十四條第三中「派遣スル者」ノ下ニ「及ヒ豫備後備ノ兵卒ニシテ學生志願ニ依リ召喚セラレタル

者」ノ二十七字ヲ加フ

第七十六條中左ノ但書ヲ加フ

但此場合ニ在テハ近方旅行三里未滿ト雖モ汽車料ハ一哩船舶料ハ一海里以上之ヲ給ス
 第八十二條第二へ左ノ但書ヲ加フ
 但下士兵卒ニシテ川留雪支船待其他避ク可カラサル事故(傷疾)ノ爲メ滞在シ其事由確實ナルモノハ日當ヲ追給ス
 第八十五條第三ヲ左ノ如ク改ム
 三 陸地測量ノ爲メ出張スル者及ヒ測量部修技所生徒實地測量修業ノ爲メ旅行スル者
 第四表中砲兵工科學舎ノ區畫中生徒取締ノ區畫ヲ削除シ陸地測量部修技所生徒ノ下段「六圓」ヲ「拾圓」ニ改ム
 第六表中「樂手補」ノ次ニ「靴工」ノ四字ヲ加フ
 第十一表中服裝手當ノ區畫ヲ左ノ如ク改ム

服裝手當	士	官	准士	士	官	八	拾	圓
	備	士	官	五	拾	四	圓	

〔參照〕

勅令第六十七號陸軍給與令(明治二十三年三月三十一日官報)抄録
 第十條中
 五 醫備隊長一等軍曹二等軍曹及ヒ上等兵看護手ニシテ外泊ノ者ニハ外泊加俸ヲ給シ二年以上在隊ノ者ニハ醫備隊附在隊加俸ヲ給ス
 但本條第三に掲ケル年功加俸ハ給セス
 第三十四條第一項
 士官及ヒ准士官ハ初任ノトキ服裝手當ヲ給ス
 第六十五條 旅費ハ汽車料船舶料馬料日當移轉料手當ノ六種ニ分ツ
 第六十八條 左ノ各項ニ該ル者ニハ第三十二表ノ旅費ヲ給ス

八 新任用ノ爲メ召喚セラレタル者但新任ノ官等ニ依ル
 第七十四條 左ノ各項ニ該ル者ニハ第三十五表ノ旅費ヲ給ス
 三 營内居住ノ下士以下ニシテ諸學校諸學舎ノ學生々徒又ハ教導隊附トシテ派遣スル者
 第七十六條 豫備後備准士官以上及ヒ下士兵卒並歸休兵戰時若クハ亦變ニ際シ或ハ臨時演習召集ノトキハ旅費ヲ給ス其金額ハ第三十七表ニ依ル
 第八十二條第二項
 歸郷ノ者旅費ハ出發ノ際其順路ニ應ジタル金額ヲ以テ精算拂ト爲シ之ヲ給スルコトヲ得
 第八十五條 左ノ各項ニ該ル者ハ前各條ニ依ラス第三十二表ノ旅費定額内ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得
 三 陸地測量ノ爲メ出張スル者
 第四表中

第十一表中

砲兵	生徒取締	八拾七錢		
工科學舎	諸工生徒	四拾貳錢	陸地測量部修技所生徒	六圓
服裝手當	准士		士	官
				八拾圓

朕茲ニ官制及俸給令改正ノ際俸給支給方ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年八月一日

內閣總理大臣伯耆松方正義

勅令第六十五號(官報 八月三日)

官制又ハ俸給令ノ改正ニ依リ新ニ給スヘキ俸給ハ新令施行ノ當日ヨリ計算ス

四等	委任 六等官	金九錢	金九錢	金貳拾貳錢	金拾貳錢	金壹圓四拾錢	金壹圓
五等	判任 四等以上	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金七拾錢
六等	判任 五等以下	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金五拾錢

朕陸軍戸山學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月五日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

勅令第六十七號 (官報 八月六日)
陸軍戸山學校條例中左ノ通改正ス
第十六條第一項中「九月」ヲ「十二月」ニ「三月若クハ四月」ヲ「五月若クハ六月」ニ改ム
同條第二項中「十二月」ヲ「二月」ニ「五月若クハ六月」ヲ「七月」ニ改ム
同條第三項中「一月」ノ上ニ「十二月若クハ」ノ六字及「六月」ノ上ニ「五月若クハ」ノ五字ヲ加ヘ「但」以下ノ二十九字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第五十四號陸軍戸山學校條例(明治二十年十月十九日官報抄録)
第十六條 職術科學生ノ學期ハ一年一回トシ概テ九月ニ始マリ三月若クハ四月ニ終ル
射擊科學生ノ學期ハ一年一回トシ概テ十二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル
體操科學生ノ學期ハ一年一回トシ其第一回ハ概テ九月ニ始マリ一月ニ終リ其第二回ハ概テ二月ニ始マリ六月ニ終ル但劍術學生ノ學期ハ一年一回ニシテ概テ九月ニ始マリ六月ニ終ル

朕茲ニ公使館領事館費用條例中追加ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年八月十日

外務大臣子爵榎本武揚

勅令第六十八號 (官報 八月十一日)
明治二十四年三月勅令第三十三號公使館領事館費用條例第二號表中「桑港、ホノル、」ノ欄内ニ「墨西哥」ノ一箇所ヲ追加ス

〔參照〕

勅令第三十三號公使館領事館費用條例(明治二十四年三月三十一日抄録)
第二號

官任所	領事官及領事館書記生在勤俸	
	紐倫	育敦
總領事	三千元	貳千九百圓
總領事代理	貳千五百圓	貳千四百圓
領事	貳千三百圓	貳千三百圓
領事代理	貳千圓	貳千八百圓
總領事館	千七百圓	千六百圓
領事館	千五百圓	千四百圓
領事代理館	千五百圓	千四百圓
領事館	千五百圓	千四百圓

朕茲ニ巡查俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年八月十日

勅令第六十九號(官報八月十一日)

巡查俸給令

第一條 巡查ノ月俸ハ左ノ如シ

- 一級 十圓
- 二級 九圓
- 三級 八圓

第二條 巡查勤続滿九年以上ノ者ハ月俸十二圓滿十二年以上ノ者ハ月俸十五圓ヲ給スルコトヲ得
 第三條 巡查教習所ニ於テ職務教習中ノ者ニ限リ月俸六圓ヲ給ス但地方ノ便宜ニ依リ其半額迄ハ之ヲ減スルコトヲ得
 第四條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

内閣總理大臣伯耆松方 正義
 内務大臣子爵品川彌二郎

副領事	千四百圓	千三百圓	千二百圓	千一百圓
書記生	千三百圓以下	千貳百圓以下	千百圓以下	千圓以下

朕巡查看守待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月十日

勅令第七十號(官報八月十一日)

巡查看守ハ判任官ヲ以テ待遇ス

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月十二日

勅令第七十一號(官報八月十三日)

陸軍大學校條例

第一條 陸軍大學校ハ陸軍各兵科ノ士官ヲ撰拔シテ高等兵學ヲ教授シ參謀其他樞要ノ職務ニ充ツ
 一々者及ヒ高等指揮官トナルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 參謀大佐
- 副官 各兵科大中尉
- 廠長 騎兵科尉官
- 獸醫

内閣總理大臣伯耆松方 正義
 内務大臣子爵品川彌二郎

内閣總理大臣伯耆松方 正義
 陸軍大臣子爵高島綱之助

軍吏

參謀佐尉官

兵學教官 各兵科佐官若クハ大尉

教官 監督部上長官若クハ監督補

同 衛生部上長官若クハ一等軍醫

同 獸醫(校附獸醫ヲ以テ兼勤セシム)

同 陸軍教授

第三條 諸教官ハ前條掲グル所ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシムルヲ得

第四條 第二條職員ノ外下士及ヒ屬若クハ置ク

第五條 校長ハ參謀總長ニ隸シテ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ事務ヲ分掌シ校長ハ校庶ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス

第七條 兵學教官及ヒ教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ又時トシテハ翻譯ニ從事セシムルコトアリ

第八條 本校學生ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ撰拔シ毎年二十名以内ヲ入學セシム

各兵科ノ中少尉ニシテ二年以上五月 陸軍隊務ニ服シ身體強健、勤務精勵、氣節アツテ識量ニ富ミ且

學術才幹卓越ニシテ將來充分發達スヘキ判斷力ヲ有スル者

第九條 聯隊長他ニ在テハ其隊長以下級之ハ前條ノ資格アル者ヲ撰拔シ學生候補名簿ヲ製シ順

序ヲ經テ所管長官ニ呈ス同長官ハ之ヲ取捨シテ撰拔順次名簿兵科及階級ヲ製シ候補名簿ヲ併セ

テ六月盡日限り參謀總長ニ進達ス

第十條 聯隊長ハ學生候補者ノ性行才能ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲メニ試驗委員ヲ設ケテ校長ヲ委員長トナシ以テ

左ノ試験ヲ行フ

其一 初審試験
其二 再審試験

初審試験ハ候補者ノ學識如何ヲ檢定スルモノニシテ毎年七月問題ヲ封緘シ所管長官ニ送付ス同長官ハ候補者ヲ集メ參謀或ハ次官ノ監視ヲ以テ之カ答解ヲ筆記セシメ八月十五日マテニ參謀總長ニ進達ス但該試験ハ全國同日ニ行フモノニシテ參謀總長豫メ其日時ヲ示定ス

再審試験ハ其學力ノ活用如何ヲ檢定スルモノニシテ參謀總長受験人名ヲ示定ス各所管長官ハ其受験者ヲ大學校ニ派遣ス

學生ノ試験課目ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年二月陸軍大臣之ヲ告示ス

第十二條 參謀總長前條ノ試験ヲ以テ優劣者ヲ決定シ入學ヲ命ス

第十三條 學生ノ入學期ハ十二月上旬ヲ以テシ本校ノ修學期限ヲ三箇年トス乃チ毎年十二月ヨリ

翌年十一月マテヲ逐次ニ第一第二第三學年ト稱ス但疾病ノ爲メニ缺課多キモノニ在リテハ更ニ

一箇年滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 校長ハ學生入學ノ後ニ其資格不適合ト認ル者アルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ

之ヲ查覈シ退學セシムルコトアルヘシ

第十五條 學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシ但入學中願用其他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ノ學用品ハ自辨トス但授業ノ種類ニ由リ物件ヲ支給シ或ハ之ヲ貸與スルコトアル

第十七條 學生ヲシテ毎年七八月ノ際ニ隊附服務セシム但第二學年者ニアリテハ尙ホ其年附屬セ

ル軍隊ノ秋季演習ニ從事セシム

學生ハ隊附服務中勤務上ニ關シテハ其隊長ニ隸ス

第十八條 學生隊附服務中ハ當該隊長學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス
 當該隊長ハ學生隊附服務ヲ終レハ其成績ヲ校長ニ申報ス
 第十九條 校長ハ各學期ノ終ニ於テ武官教官ヲ會集シ學生ノ修學結果及ヒ技術ヲ審查シ第一第二
 學年者ニアリテハ其修學結果ヲ第二學年者ニアリテハ技術證明書並優劣順次名簿ヲ參謀總長ニ
 呈ス
 第二十條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及ヒ之ヲ表彰スヘキ徽章ヲ附與ス
 第二十一條 學生卒業ノ上ハ隊附ノ者ニアリテハ直チニ原隊ニ復歸セシメ隊外ノ者ニアリテハ共
 所管ニ復歸ノ後直チニ隊附ヲ命ス

陸軍大學校學生候補名簿

隊	品性	體格	年附服務	賞	陸軍出身	族	所管職官姓名
							籍
何々	何々	何々					
				尉	職	年	
					役	齡	

本隊長ノ所見ハ第一條ノ規定ニ依リテ
 本隊長ノ所見ハ第一條ノ規定ニ依リテ
 本隊長ノ所見ハ第一條ノ規定ニ依リテ

見	長				才
	學術	勤務	言語	特有技能	
何々	何々	何々	何々	何々	何々
何々	何々	何々	何々	何々	何々

右陸軍大學校學生候補ニ適當スルコトヲ確認ス
 所管長官 姓名印

朕茲ニ府縣立師範學校長任命及俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年八月十七日

内閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣伯爵大木喬任

勅令第七十二號(官報八月十八日)

府縣立師範學校長任命及俸給令

第一條 府縣立師範學校長ハ奏任トス

第二條 府縣立師範學校長ノ年俸ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 本令ニ規定スルモノ、外總テ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令ニ依ル

附則

第四條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

別表

一	級二	級三	級四	級五	級六	級
千二百	四百	千	四百	九百	四百	八百
四百	七	百	四百	七	百	四百
千	四百	七	百	四百	七	百

朕府縣立師範學校長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月十七日

内閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣伯爵大木喬任

勅令第七十三號(官報八月十八日)

府縣立師範學校長特別任用令

第一條 府縣立師範學校長ハ高等師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者若クハ本令施行ノ際尋常師範學校長ノ現職ニ在ル者又ハ五箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シ現ニ四拾圓以上ノ月俸ヲ受クル

判任官又ハ判任待遇ノ者ニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ任用スル

コトヲ得

第二條 前條ニ依リ任用シタル府縣立師範學校長ハ高等試験ヲ經ルニ非サレハ他ノ高等官ニ轉任

スルコトヲ得ス

附則

第三條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○

朕地方衛生會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月十七日

内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第七十四號(官報八月十八日)

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生

獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生監督衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ

會長

府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員

府縣書記官

警部長

但東京府ハ警視廳警務局長

府縣參事官

名譽職府縣參事會員

府縣廳所在地ノ郡長又ハ市長

醫師

獸醫

化學家

臨時委員

書記

府縣廳ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ書記官之ヲ代理シ書記官事故アルトキハ開會當日出席委員ノ互選ヲ以テ會長ヲ定メ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中府縣參事官醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ

一人

一人

四人

三人乃至五人

一人

一人

得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得

名譽職府參事會員ハ改選毎ニ郡市部各一名ヲ互選シ府知事之ヲ命ス

第八條 官吏ノ資格ヲ以テ委員トナリタル者ノ旅費ハ其所屬廳ノ經費ヨリ支給シ市長ノ旅費ハ市役所ノ經費ヨリ支給シ其他ノ委員ニ係ル手當旅費ハ府縣稅ヨリ支給スルコトヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

第十條 府縣制ヲ施行セサル地方ニ於テハ名譽職府縣參事會員ノ職務ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充ツ此場合ニ於テハ常置委員改選毎ニ該員中ニ於テ互選シ府縣知事之ヲ命ス

朕陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月十七日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

勅令第七十五號(官報 八月十八日)

陸地測量部條例

第一條 陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充ツ可キ内國圖ヲ製造修正シ其他量地ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條 陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

各兵科大佐

各兵科少佐及尉官

事務官

材料主管 各兵科大尉
 軍吏 一(二)等軍吏
 科長 各兵科中(少)佐
 科僚 各兵科中尉或少尉
 班長 各兵科少佐或大尉
 班員 各兵科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手
 修技所幹事 各兵科大尉
 修技所教官 各兵科大中少尉或相當陸地測量師
 修技所助教 陸地測量手
 第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス
 第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク
 第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク
 第七條 軍吏ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク
 第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管レ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル
 第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム
 第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス
 第十一條 科僚ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス
 第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス
 第十四條 科長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
 第十五條 修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク
 第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス
 第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勵セシメ若クハ學識アル者ヲ選ヒテ之ニ囑托スルヲ得

御名 御璽

明治二十四年八月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第三百七十六號(官報八月十八日)
 陸軍衛生部現役下士補充條例中左ノ通改正追加ス
 第二條中「適當スル者ヲ選拔シ」ノ九字ヲ「適當シ學術優等ノ者ヲ選拔シテ」ノ十四字ニ改ム
 第三條中「陸軍大臣ノ認可ヲ得」ノ九字ヲ刪ル
 第五條中「下士補充條例」ノ下ニ「第二條第一項」ノ六字ヲ加フ
 第六條中「ニ上申シ醫務局長ニ於テ」ノ十一字ヲ「ノ認可ヲ請ヒ」ノ六字ニ改ム
 第六條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
 第七條 衛生部下士ニシテ刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ官職ヲ免シタル者ハ前兵科ニ

各種斗桶ノ徑及長サ		量器(各種ノ木製 鐵製ノモノ及ニ升又ハ五リットル以上ノ金屬製ノモノ)ノ容量	
一	寸	一升以下	全量ノ百五十分ノ一
二	寸	二升以上	一厘
五	寸	五リットル以下	〇.三「ミリメートル」
一	尺	五リットル以上	〇.八「ミリメートル」

各種斗桶ノ徑及長サ		量器(鐵製ヲ除キ他ノ金屬製一升)水重ノ公差	
一	寸	〇.五	一「センチリットル」
二	寸	〇.〇五	二「センチリットル」
五	寸	〇.一〇	五「センチリットル」
一	尺	〇.一〇	一「デシリットル」
二	尺	一.〇〇	二「デシリットル」
五	尺	一.五〇	五「デシリットル」
一	升	二.〇〇	一「リットル」
五	升	一.五〇	一「リットル」
一	斗	〇.三	一「デシリットル」
五	斗	〇.五	二「デシリットル」

度器ノ各目盛ノ公差ハ前項定限ノ二分ノ一トス
 第四條 檢定スヘキ度器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ量器ハ其ノ全量ノ外
 他ノ目盛ヲ檢定セス
 度器ノ目盛

衡器ノ公差	
二 合	一.〇
二 合 五 勺	一.二
五 合	一.五
一 升	三.〇
分銅五分	〇.〇〇五
分銅一匁以上	〇.〇一〇
分銅十匁以上	〇.〇一〇
分銅二十匁以上	〇.〇一〇
分銅五十匁以上	〇.〇一〇
分銅一グラム未満	全重ノ百分ノ一
目盛	一度目ノ二分ノ一ニ相當スル重サ

(一)二尺以下ノ度器
 (二)十尺未満ノ度器
 (三)十尺以上ノ度器
 (四)各種鯨尺度器
 (五)「メートル」以下ノ度器

五「ミリメートル」 (五「メートル」未滿ノ度器)
 五「センチメートル」 (五「メートル」以上ノ度器)
 分銅
 一厘
 一「センチグラム」

第五條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス

第六條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ヲ願出ル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シタル營業ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 製作、修覆ヲ願出ル者
- 一 製作場、修覆場ノ位置及構造
 - 二 製作、修覆セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質
 - 三 資本金
 - 四 製作、修覆ニ使用スヘキ技師、職工ノ員數及其ノ職業別並ニ諸器械ノ種類
- 販賣ヲ願出ル者及製作者ニシテ販賣ヲ兼ヌル者
- 一 販賣所ノ位置及構造
 - 二 販賣セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質
 - 三 資本金
 - 四 販賣セントスル度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ輸入者ノ住所、姓名及營業所

農商務大臣前項營業ノ設計ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ願書ヲ却下スヘシ

第七條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受タル者其ノ營業ノ設計ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ

- 度量衡器又ハ衡器ノ製作 金拾五圓
- 度量衡器又ハ衡器ノ修覆 金拾貳圓
- 度量衡器又ハ衡器ノ販賣 金五圓

第九條 度量衡器ノ檢定ヲ受クルモノハ左ノ檢定料ヲ納ムヘシ

- 二段以上目盛シタル度器ハ一段毎ニ其ノ檢定料ヲ納ムヘシ

檢定料	
度器	
竹	一尺以下(一分目) 〇.五
	一尺以下(五厘目) 一.〇
	三尺以下(一分以上ノ目) 一.〇
	七尺以下 四.〇
骨	半「メートル」以下 二.五
	一「メートル」以下 四.〇
	二「メートル」以下 五.〇
象	鯨尺 一尺 〇.五
	鯨尺 二尺 一.〇
	鯨尺 三尺 一.〇
牙	

金	量器	
	尺	寸
一尺以下	一箇	二五
三尺以下	一箇	二五
七尺以下	一箇	五〇
十八尺以下	一箇	五〇
六十尺以下	一箇	二五〇
六十六尺以上	一箇	五〇〇
曲り尺各種	一箇	三五
半「メートル」以下	一箇	五〇
一「メートル」以下	一箇	六〇
二「メートル」以下	一箇	七五
五「メートル」以下	一箇	七五
十「メートル」以上	一箇	五〇〇
鯨尺 一尺	一箇	二五
鯨尺 二尺	一箇	二五
鯨尺 三尺	一箇	二五
櫛櫃 二合五勺以下	一箇	一〇
櫛櫃 二升以下	一箇	二〇

銅	分	斗		各種
		各種	衡器	
一斗	一箇	三五		
二合五勺以下	一箇	五〇		
一升以下	一箇	三〇		
二升	一箇	四〇		
五升	一箇	五〇		
一斗	一箇	七五		
各種	一箇	〇五		
五分未満	一箇	四〇		
二十匁以下	一組(分銅ノ數八箇以下)	八〇		
五百匁以下	一組(分銅ノ數十三箇以下)	一五〇		
五百匁以下	一箇	二〇		
一貫以上	一箇	五〇		
一「グラム」未満	一箇	四〇		
五十「グラム」以下	一組(分銅ノ數八箇以下)	八〇		
一「キログラム」以下	一組(分銅ノ數十三箇以下)	一五〇		
一「キログラム」以下	一箇	二〇		

秤	秤	秤	秤	天秤
二、キログラム以上 一箇	二、キログラム以下	五百、キログラム以下	二百、キログラム以下	一、五、キログラム以上 一箇
一、五、キログラム以上 一箇	其ノ他ノモノ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	其ノ他ノモノ
五十貫以下	五十貫以下	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	五十貫以下
百五十貫以下	百五十貫以下	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	百五十貫以下
以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上百貫マテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ
二百、キログラム以下	二百、キログラム以下	二百、キログラム以下	二百、キログラム以下	二百、キログラム以下
五百、キログラム以下	五百、キログラム以下	五百、キログラム以下	五百、キログラム以下	五百、キログラム以下
以上三百、キログラムマテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上三百、キログラムマテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上三百、キログラムマテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上三百、キログラムマテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ	以上三百、キログラムマテヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ加フ
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)
二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)	二貫以下(目盛全掛量ノ二百五十分ノ一ヨリ小ナラサルモノ)
二貫ヲ超ヘ十貫未滿	二貫ヲ超ヘ十貫未滿	二貫ヲ超ヘ十貫未滿	二貫ヲ超ヘ十貫未滿	二貫ヲ超ヘ十貫未滿
十貫以上三十貫マテ	十貫以上三十貫マテ	十貫以上三十貫マテ	十貫以上三十貫マテ	十貫以上三十貫マテ
以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十貫マテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ
七、キログラム以下	七、キログラム以下	七、キログラム以下	七、キログラム以下	七、キログラム以下
七、キログラム以下	七、キログラム以下	七、キログラム以下	七、キログラム以下	七、キログラム以下
七、キログラム以上ヲ超ヘ百、キログラムマテ	七、キログラム以上ヲ超ヘ百、キログラムマテ	七、キログラム以上ヲ超ヘ百、キログラムマテ	七、キログラム以上ヲ超ヘ百、キログラムマテ	七、キログラム以上ヲ超ヘ百、キログラムマテ
以上十、キログラムマテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十、キログラムマテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十、キログラムマテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十、キログラムマテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ	以上十、キログラムマテヲ増ス毎ニ五錢ヲ加フ

第十條 第八條ノ免許料及第九條ノ檢定料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 度量衡器ノ製作 修葺又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ身元保證金ヲ納ムヘシ

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

度量衡器製作

金二百圓

明治三十四年八月 勅令 第七十七號

二八五

朕海軍高等武官進級條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十四年八月十八日

勅令第七十八號(官報八月十九日)

内閣總理大臣 伯耆松方正義
海軍大臣 齋藤山資紀

朕帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年八月十九日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百七十九號(官報 八月二十日)
明治二十三年十月勅令第百六十三號帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則中第四條但書ヲ
剛除シ並旅費表左ノ通改正ス

旅		費	
汽 車 一哩ニ付	汽 船 一海里ニ付	車 馬 一里ニ付	日
六 錢 五 厘 七	十	八 錢 二	四

【參照】

勅令第百六十三號帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則(明治二十三年十月二十四日官報)抄録
第四條 貴族院勅任議員ノ歳費ハ其勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス但シ多額納稅者ノ互選セラレタル者ハ其ノ互選セラ
レタル當月分ヨリ支給ス

汽 車		汽 船		車 馬		日	
一哩ニ付	一海里ニ付	一里ニ付	一里ニ付	一里ニ付	一里ニ付	一里ニ付	一里ニ付
六 錢 五 厘 七	十	八 錢 二	四	八 錢 二	四	八 錢 二	四

朕横須賀鎮守府吳鎮守府佐世保鎮守府定員中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 廩

明治二十四年八月二十五日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第百八十號(官報 八月二十六日)
横須賀鎮守府吳鎮守府佐世保鎮守府定員中左ノ如ク改正シ「上等主帳主帳ヲ混用スルコトヲ得」ノ
十五字ヲ删除シ「本表ニ掲グル定員ノ外各地炭庫ニ書記各一名ヲ配置ス」ノ一欄ヲ追加ス

横須賀鎮守府ノ部	建築部主幹	技師	二
	一等下士		十八
	二等下士		十七
	三等下士		十五
	技手		八十三
吳鎮守府ノ部	造船部計畫科主幹	技監或ハ技士	兼務一
	一等下士	大技士	十六
	二等下士		十三
	三等下士		九
	技手		三十九
佐世保鎮守府ノ部	一等下士		十二

二等下士
三等下士
技手

十三
八
十七

〔参照〕

勅令第二百三十七號(明治二十三年十月二十日官報)抄録

横須賀鎮守府	建築部主幹 技師	一	上等技士 二等下士 三等下士 技手	混用スルコトヲ得	二 二 二 一
吳鎮守府	造船部計畫科主幹 技監或ハ技士兼務一	一	上等技士 二等下士 三等下士 技手	混用スルコトヲ得	二 二 二 一
佐世保鎮守府			上等技士 二等下士 三等下士 技手	混用スルコトヲ得	二 二 二 一

朕水路部定員中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月二十五日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第百八十一號(官報八月二十六日)
水路部定員中左ノ如ク改正ス

二十四

〔参照〕

勅令第四十九號水路部條例(明治二十一年六月二十七日官報)抄録

上等技士
技手

九
六
九

朕海軍機關學校定員中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月二十五日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第百八十二號(官報八月二十六日)
海軍機關學校定員中左ノ如ク改正ス

六七

一等下士
二等下士

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月二十八日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第百八十四號(官報八月二十九日)

陸軍給與令中第七十五條第一項第二項及第三十二表第三十三表第三十七表第三十九表第四十表第四十三表左ノ通改正シ明治二十四年九月一日ヨリ施行ス

第七十五條

豫備後備准士官以上及ヒ下士卒並歸休兵定時演習召集ノトキハ旅費ヲ給ス其金額ハ第三十六表ニ依ル但船舶ニアラサレハ旅行シ難キ地方ニシテ本文旅費金額ニ據リ難キトキハ其地方ニ限リ實費拂フ爲スコトヲ得
前項旅費ハ近方三里未滿ハ之ヲ給セス三里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額又十里以上ノ端里數一里未滿ハ給セス一里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス但三里未滿ト雖モ第六十七條第二項ノ場合ニ在テハ船舶料ヲ給ス其金額ハ第三十七表ニ依ル

第三十二表

名	職	區	別	汽		海		陸	
				車	料	船	車	馬	料
大將	親任	官	八	八	拾	貳拾	八	四	四
准士官	親任	官	七	七	八	貳拾	八	四	四
下士官	判任	官	四	四	五	七	七	七	七
兵卒	判任	官	三	三	五	五	三	三	三

名	職	區	別	汽		海		陸	
				車	料	船	車	馬	料
上長官	奏任	官	六	六	六	拾	五	拾	拾
士官	奏任	官	六	六	六	拾	五	拾	拾
准士官	判任	官	四	四	五	七	七	七	七
下士官	判任	官	四	四	五	七	七	七	七
兵卒	判任	官	三	三	五	五	三	三	三

第三十三表

名	職	區	別	汽		海		陸	
				車	料	船	車	馬	料
大將	親任	官	七	七	七	拾	五	拾	拾
相將	親任	官	六	六	六	拾	五	拾	拾
上長官	奏任	官	四	四	拾	貳	拾	五	拾
士官	奏任	官	四	四	拾	貳	拾	五	拾
准士官	判任	官	三	三	六	貳	拾	貳	拾
下士官	判任	官	三	三	六	貳	拾	貳	拾
兵卒	判任	官	貳	貳	四	貳	拾	貳	拾

第七十五條第一項
 豫備後備准士官以上及下士官並歸休兵定時演習召集ノトキハ旅費ヲ給ス其金額ハ第三十六表ニ依ル但近方三里未滿
 ハ之ヲ給セス三里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額又十里以上ノ端里數一里未滿ハ給セス一里以上六里未滿ハ半額六
 里以上ハ全額ヲ給ス

第二項

近傍三里未滿ト雖モ第六十七條第二項ノ場合ニ在テハ船舶料ヲ給ス其金額ハ第三十七表ニ依ル

第三十二表

名	稱	區別	旅費				費
			汽 車 料	船 舶 料	一 里 馬 料	日 每 當	
大	將	親任官	拾貳	拾貳	四拾	三圓貳拾錢	
相	將	勅任官	拾	拾	三拾三	貳圓四拾錢	
上	長官	奏任三等以上	七	七	貳拾貳	壹圓六拾錢	
士	官	奏任四等以下	七	七	拾八	壹圓拾錢	
准	士官	判任一等	五	五	拾壹	七拾錢	
下	士官	判任二等以下	五	五	七	五拾錢	
兵	卒		三	三	五	三拾錢	

第三十三表

一 士官候補生ノ旅費額ハ下士ニ同シ

名	稱	區別	汽 車 料	船 舶 料	一 里 馬 料	日 每 當
大	將	親任官	拾貳	拾貳	四拾	三圓貳拾錢
相	將	勅任官	拾	拾	三拾三	貳圓四拾錢
上	長官	奏任三等以上	七	七	貳拾貳	壹圓六拾錢
士	官	奏任四等以下	七	七	拾八	壹圓拾錢
准	士官	判任一等	五	五	拾壹	七拾錢
下	士官	判任二等以下	五	五	七	五拾錢
兵	卒		三	三	五	三拾錢

第三十七表

名	稱	區別	汽 車 料	船 舶 料	一 里 馬 料	日 每 當
大	將	親任官	拾	拾	貳拾	六拾錢
相	將	勅任官	拾	拾	貳拾	貳拾五圓
上	長官	奏任三等以上	六	六	拾貳	貳拾圓
士	官	奏任四等以下	六	六	拾貳	貳拾圓
准	士官	判任一等	六	六	拾貳	貳拾圓
下	士官	判任二等以下	六	六	拾貳	貳拾圓
兵	卒		六	六	拾貳	貳拾圓

第三十九表

名	稱	區別	汽 車 料	船 舶 料	一 里 馬 料	日 每 當
大	將	親任官	拾	拾	貳拾	六拾錢
中	將	勅任官	拾	拾	貳拾	貳拾五圓
少	將	勅任官	拾	拾	貳拾	貳拾圓
當	官	勅任官	拾	拾	貳拾	貳拾圓

明治二十四年八月 勅令 第百八十六號

准士官	試補	拾	錢	貳	拾	錢
下士官	判任官	拾	錢	拾	六	錢
兵卒		九	錢	拾	四	錢

三〇二

〔参照〕

勅令第百一號屯田兵給與令(明治二十三年九月六日官報)抄錄
第十三表

名	稱	區別	北		海		道		車		馬		料
			每年四月ヨリ十月迄	一里毎	每年十一月ヨリ翌年三月迄	一里毎	每年四月ヨリ十月迄	一里毎	每年十一月ヨリ翌年三月迄	一里毎			
將官	勅任官	三	拾	六	錢	四	拾	八	錢				
上長官	奏任三等以上	貳	拾	四	錢	三	拾	貳	錢				
士官	奏任四等以下	拾	九	錢	貳	拾	五	錢					
准士官	判任一等	拾	貳	錢	拾	六	錢						
下士官	判任二等以下	拾	錢	拾	六	錢							
兵卒		九	錢	拾	四	錢							

朕戰時陸軍郵便部ノ配達卒其他諸卒ノ限制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年八月二十八日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第百八十六號(官報 八月二十九日)
戰時陸軍郵便部ノ配達卒糧食部ノ糧倉卒野戰病院ノ炊卒及將校同相當官ニ隨從スル從卒馬卒ノ服制ハ輻重輪卒ノ服制ニ同シ

明治二十四年八月 勅令 第百八十六號

三〇三